

2026 年 IEEE 関西支部 総会資料

2026 年 3 月 23 日
IEEE 関西支部

総会資料目次

I.	2026 年関西支部役員・理事	1
II.	2026 年 Kansai Chapter 役員	6
III.	2026 年関西支部 Student Branch 役員	9
IV.	2025 年活動報告および 2026 年活動計画	11
V.	関西支部会員数	57
VI.	2025 年会計報告	59
VII.	2026 年予算	61
VIII.	受賞者	63
	参考情報	64

2026 年 IEEE 関西支部総会 プログラム

1. 日時：2026 年 3 月 23 日(月) 14 時 00 分～17 時 00 分
2. 会場：大阪工業大学 梅田キャンパス
OIT 梅田タワー 2 階 セミナー室 203・204
〒530-8568 大阪市北区茶屋町 1 番 45 号
3. スケジュール：
 1. 開会の挨拶、議長選任
 2. 役員・理事紹介
 3. 2025 年活動報告および 2026 年活動計画について
 4. 2025 年会計報告および 2026 年予算案について
<休憩>
 5. Chapter 役員紹介および活動紹介
<休憩>
 6. IEEE 関西支部 Young Professionals 賞 授賞式
 7. IEEE 関西支部 学生研究奨励賞 授賞式
 8. IEEE Japan Council メダル授賞式 (新 Senior Members)
 9. IEEE 関西支部 新 Fellow 紹介
 10. 閉会の挨拶

I. 2026年関西支部役員・理事

1. 役員 (Section Officers)

Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Vice Chair:	西沢 昭則	(三菱電機(株))
Secretary:	三浦 成久	(三菱電機(株))
Treasurer:	平松 星紀	(三菱電機(株))

2. 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	林 優一	(奈良先端科学技術大学院大学)
NC Chair:	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
SAC Chair:	市川 昊平	(奈良先端科学技術大学院大学)
TPC Chair:	田中 雄一	(大阪大学)
AC Chair:	肥後 芳樹	(大阪大学)
COC Chair:	太田 能	(神戸大学)

3. 理事 (Affinity Group Chairs)

LMAG Chair:	有木 康雄	(神戸大学)
WIE AG Chair:	岩元 美由紀	(同志社女子大学)
YP AG Chair:	豊岡 祥太	(関西大学)

4. 理事 (Activities Chair)

EA Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
-----------	-------	---------

5. 理事 (Past Officer)

Past Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
-------------	-------	--------

6. 理事 (Past Committee Chair)

Past NC Chair:	村田 忠彦	(大阪大学)
----------------	-------	--------

7. Observer

Past Secretary/Treasurer:	向井 英之	(住友電気工業(株))
---------------------------	-------	-------------

8. Committee Officers

a. Membership Development Committee (MDC)

Chair:	林 優一	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary:	藤本 大介	(奈良先端科学技術大学院大学)
Member:	奥田 武夫	(オムロン(株))
	廣瀬 裕	(パナソニック(株))
	澤田 宏	(日本電信電話(株))
	佐々木 正人	(シャープ(株))
	貝原 俊也	(神戸大学)
	東 俊一	(京都大学)
	椋木 康滋	(三菱電機(株))
	中島 重義	(大阪公立大学)
	木村 啓明	(ローム(株))
	平松 信樹	(京セラ(株))
	加藤 貴敏	((株)村田製作所)
	石野 祥太郎	(古野電気(株))
	八木 直美	(兵庫県立大学)

b. Nominations Committee (NC)

Chair:	浦岡 行治	(奈良先端科学技術大学院大学)
Member:	村田 忠彦	(大阪大学)
	河西 秀典	(奈良先端科学技術大学院大学)
	木村 睦	(龍谷大学)

c. Student Activities Committee (SAC)

Chair:	市川 昊平	(奈良先端科学技術大学院大学)	
Member:	井上 文彰	(大阪大学)	
	白井 僚	(京都大学)	
	和泉 慎太郎	(神戸大学)	
	加藤 恒夫	(同志社大学)	
	福水 洋平	(立命館大学)	
	礪川 悌次郎	(兵庫県立大学)	
	宝田 隼	(関西大学)	
	飯間 等	(京都工芸繊維大学)	
	(Student Representative)	豊岡 祥太	(関西大学)

d. Technical Program Committee (TPC)

Chair:	田中 雄一	(大阪大学)
Vice Chair:	柳川 由紀子	(オムロン(株))
Secretary:	東 広志	(大阪大学)

e. Awards Committee (AC)

Chair:	肥後 芳樹	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	久保田 寛和	(大阪公立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	白石 善明	(神戸大学)
	新谷 道広	(京都工芸繊維大学)
	杉原 英治	(関西学院大学)
	杉原 浩平	(三菱電機(株))
	辻岡 哲夫	(大阪公立大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	林 和則	(京都大学)
	東森 充	(大阪大学)
	佐藤 丈博	(京都大学)
	元井 直樹	(神戸大学)
	山田 晃久	((株)モリタホールディングス)
	和田 友孝	(関西大学)

f. Chapter Operations Committee (COC)

Chair:	太田 能	(神戸大学)
Secretary:	藤本 章宏	(和歌山大学)
Member:	中原 健	(ローム(株))
	川口 博	(神戸大学)
	橋本 昌宜	(京都大学)
	岩井 誠人	(同志社大学)
	熊本 和夫	(大阪工業大学)
	吉田 則裕	(立命館大学)
	河合 正	(兵庫県立大学)
	戸田 裕之	(同志社大学)
	滝口 哲也	(神戸大学)
	打矢 隆弘	(名古屋工業大学)
	藤本 健治	(京都大学)
	柿ヶ野 浩明	(立命館大学)
	戸川 欣彦	(大阪公立大学)
	舟木 剛	(大阪大学)

g. Life Members Affinity Group (LMAG)

Chair:	有木 康雄	(神戸大学)
Vice Chair:	大島 一能	(大阪工業大学、元三菱電機(株))
Vice Chair:	石田 亨	(京都大学)
Secretary:	安田 清和	(大阪大学)
Secretary:	伊藤 守	(神戸情報大学院大学、元パナソニック(株))
Past Chair:	櫛木 好明	(元パナソニック(株))

h. Women In Engineering Affinity Group (WIE AG)

Chair:	岩元 美由紀	(同志社女子大学)
Vice Chair:	エバンズ 直子	(TOA(株) / 大阪大学)
Vice Chair:	槇原 絵里奈	(立命館大学)
Secretary:	蔭山 享佑	(近畿大学)
Treasurer:	江口 佳那	(京都大学)

i. Young Professionals Affinity Group (YP AG)

Chair:	豊岡 祥太	(関西大学)
Vice Chair:	中島 優作	(大阪大学)
Secretary/Treasurer:	小川 将広	(立命館大学)
Member:	二社谷 一樹	(オムロン(株))
	井下 敬翔	(関西大学)
	岨野 太一	(立命館大学)
	平木 尊	(関西大学)
Associate:	岩居 健太	(大阪産業大学)
	青木 信雄	(総合研究大学院大学 国立情報学研究所)
	伊原 彰紀	(和歌山大学)

j. Educational Activities (EA)

Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
Vice Chair:	田邊 信二	(元三菱電機(株))
Member:	東坂 範雄	(三菱電機(株))
Member:	Geng Yuting	(立命館大学)

II. 2026 年 Kansai Chapter 役員

1. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

Chair:	中原 健	(ローム(株))
Vice Chair:	前元 利彦	(大阪工業大学)
Secretary:	奥 良彰	(ローム(株))
Treasurer:	松田 時宜	(近畿大学)

2. SSCS (Solid-State Circuits Society) Kansai Chapter

Chair:	川口 博	(神戸大学)
Vice Chair:	新居 浩二	(TSMC Design Technology Japan(株))
Secretary:	三木 拓司	(神戸大学)
Treasurer:	矢野 祐二	(TSMC Design Technology Japan(株))

3. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	橋本 昌宜	(京都大学)
Vice Chair:	越智 裕之	(立命館大学)
Secretary:	南 政孝	(近畿大学)
Treasurer:	上野 嶺	(京都大学)

4. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

Chair:	山岸 傑	((株)オートネットワーク技術研究所)
Vice Chair:	山本 綱之	(津山高専)
Vice Chair:	佐々木 愛一郎	(近畿大学)
Secretary:	浦上 大世	(香川高専)
Treasurer:	田澤 拓也	(奈良高専)

5. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

Chair:	和田 友孝	(関西大学)
Vice Chair:	熊本 和夫	(大阪工業大学)
Secretary:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)
Treasurer:	江 易翰	(大阪公立大学)

6. CS (Computer Society) Kansai Chapter

Chair:	丸山 悠樹	(パナソニック(株))
Vice Chair:	石川 和史	(パナソニック(株))
Vice Chair:	角田 雅照	(近畿大学)
Secretary:	吉川 智哉	(三菱電機(株))
Treasurer:	赵 大放	(大阪大学)

7. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Chair:	河合 正	(兵庫県立大学)
Vice Chair:	上田 哲也	(京都工芸繊維大学)
Secretary:	石野 祥太郎	(古野電気(株))
Secretary:	嘉藤 勝也	(三菱電機(株))
Treasurer:	吉田 賢史	(龍谷大学)

8. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Chair:	戸田 裕之	(同志社大学)
Vice Chair:	高橋 和	(岡山大学)
Secretary:	三科 健	(大阪大学)
Treasurer:	竹村 亮太	(三菱電機(株))

9. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

Chair:	滝口 哲也	(神戸大学)
Vice Chair:	荒木 章子	(NTT(株))
Secretary:	高島 遼一	(立命館大学)
Treasurer:	中山 雅人	(立命館大学)

10. CTS (Consumer Technology Society) West Japan Joint Chapter

Chair:	打矢 隆弘	(名古屋工業大学)
Vice Chair:	後藤 富朗	(名古屋工業大学)
Secretary:	植村 涉	(龍谷大学)
Treasurer:	西村 良太	(豊橋技術科学大学)

11. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	高井 重昌	(大阪大学)
Vice Chair:	増淵 泉	(神戸大学)
Secretary:	橋本 和宗	(大阪大学)
Treasurer:	若生 将史	(神戸大学)

12. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

Chair:	笠 展幸	(岡山理科大学)
Vice Chair:	石原 将貴	(岡山大学)
Secretary:	又吉 秀仁	(大阪工業大学)
Treasurer:	七森 公碩	(舞鶴工業高等専門学校)

13. MAGS (Magnetics Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

Chair:	戸川 欣彦	(大阪公立大学)
Vice Chair:	岡本 好弘	(愛媛大学)
Secretary:	白土 優	(大阪大学)
Treasurer:	宍戸 寛明	(大阪公立大学)

14. PSES (Product Safety Engineering Society) Kansai and Nagoya Joint Chapter

Chair:	舟木 剛	(大阪大学)
Vice Chair:	濱口 慶一	((株)コスモス・コーポレーション)
Secretary:	(調整中)	
Treasurer:	(調整中)	

III. 2026年関西支部 Student Branch 役員

1. 大阪大学 (<http://www.ise2.ist.osaka-u.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Mentor:	藤田 玄	(大阪電気通信大学)
Chair:	野田 龍斗	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Vice Chair:	内田 賢人	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Treasurer:	榎本 裕真	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Secretary:	里見 青凌	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻

2. 京都大学 (<http://ieee.kuee.kyoto-u.ac.jp/>)

Counselor:	白井 僚	情報学研究科
Mentor:	近村 啓史	((株)フィックスターズ)
Chair:	名執 凌磨	情報学研究科
Vice Chair:	北池 弘明	情報学研究科
Treasurer:	坂本 耕平	情報学研究科
Secretary:	大野 伶将	情報学研究科

3. 立命館大学 (<https://sites.google.com/site/ieeeritsumeikansb/home>)

Counselor:	孟 林	電子情報工学科
Chair:	岡野 匠吾	理工学研究科 電子システム専攻
Vice Chair:	池田 和希	理工学研究科 電子システム専攻
Treasurer:	早川 竜生	理工学研究科 電子システム専攻
Secretary:	松尾 桃花	理工学研究科 電子システム専攻

4. 奈良先端科学技術大学院大学 (<http://ieee-sb-naist.github.io/>)

Counselor:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
Mentor:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Chair:	Ndalama Festus Edward	先端科学技術研究科
Vice Chair:	Indira Febriyanti	先端科学技術研究科
Treasurer:	Valerie Megan	先端科学技術研究科
Secretary:	Patrick Mutabazi	先端科学技術研究科
Webmaster:	A S M Nazrul Islam	先端科学技術研究科

5. 兵庫県立大学 (<http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html>)

Counselor:	磯川 悌次郎	工学研究科 電子情報工学専攻
Mentor:	柳川 由紀子	(オムロン(株))
Chair:	岡室 亮真	工学研究科 電子情報工学専攻
Vice Chair:	遠藤 碧	工学研究科 電子情報工学専攻

6. 関西大学 (http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/)

Counselor:	梶川 嘉延	(関西大学)
Chair:	松井 遥暉	理工学研究科 システム理工学専攻
Vice Chair:	山本 翔平	理工学研究科 システム理工学専攻
Treasurer:	坂野 凜	理工学研究科 システム理工学専攻
Secretary:	太田 凌	理工学研究科 システム理工学専攻

7. 同志社大学 (<https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	大崎 美穂	(同志社大学)
Chair:	宮原 絃造	大学院理工学研究科 情報工学専攻
Vice Chair:	藤川 陸丸	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
Treasurer:	藤澤 璃子	大学院理工学研究科 情報工学専攻
Secretary:	朴 洗薇	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻

IV. 2025 年活動報告 および 2026 年活動計画

1. 総括

【2025 年活動報告】

各 Committee、Affinity Group、Chapter にて技術講演会やシンポジウム、ワークショップ含め様々なイベントを開催し、当支部会員及び会員外に IEEE 関西支部のプレゼンスを示すとともに、支部内外の技術的・学術的交流を深めた。今年度は IEEE IEW (Industry Engagement Workshop)と IEEE SYWL (Student branch, Young professionals, Women in engineering, Life member affinity group) Workshop を Japan Council と連携して関西支部で主催し、関係するメンバーのご尽力を頂くことで成功裏に終えることができた。これら活動や Student Branch の活動を合わせて IEEE の恩恵を広く認知させたことで、学生・大学院会員の増を主因に、ここ 10 年来で最多の会員数(2,301 人@2025/12/31)を記録した。

【2026 年活動計画】

TPC (Technical Program Committee)主催の技術講演会をはじめ、各 Committee、Affinity Group 主催の既存イベントの継続を適切に進めるとともに、支部活動のより一層の活性化と会員増につながる新規イベントの導入も継続検討したい。そのため、支部理事会・事務局として、Committee、Affinity Group、Chapter、Student Branch の各活動に対して、より一層の積極的支援を行う。

2. 総会

【2025 年活動報告】

3 月 24 日(月)に大阪工業大学梅田キャンパスに於いて対面および Teams によるオンラインのハイブリッド形式で年次総会を開催した。各 Committee、Chapter、Affinity Group から 2024 年の活動実績、および 2025 年の活動計画を報告した。関西支部より 2024 年決算と 2025 年予算を報告し、承認された。総会中、Young Professionals 賞、学生研究奨励賞授賞式、新シニア会員への関西支部メダル授与式、新 Fellow の紹介・講演会を実施した。参加者数は、対面 50 名、オンライン 17 名の計 67 名であった。

【2026 年活動計画】

3 月 23 日(月) 14:00~17:00 の予定で、年次総会を開催する。

3. 理事会

【2025 年活動報告】

5 回の理事会を開催し、折々の支部運営について審議・議論した。対面およびオンラインのハイブリッド開催とした。理事会議論においては、特に支部および支部内組織 (Committee、AG 等) が主催・共催するイベントの活性化に取り組んだ。

- 第1回理事会

開催日: 1月16日(火)

会場: 大阪倶楽部 2号会議室、および Teams によるオンライン

参加者: 19名

内容: 2024年会計報告および2025年予算計画の確認、関西支部総会準備
- 第2回理事会

開催日: 3月24日(月)

会場: 大阪工業大学梅田キャンパス セミナー室、および Teams によるオンライン

参加者: 19名

内容: 関西支部総会準備(段取り、資料の最終確認)
- 第3回理事会

開催日: 5月27日(火)

会場: Teams によるオンライン

参加者: 14名

内容: R10ミーティング報告、第一回 JC 理事会報告、Milestone 申請・贈呈式への対応
- 第4回理事会

開催日: 9月25日(木)

会場: 大阪倶楽部 第2会議室、および Teams によるオンライン

参加者: 18名

内容: 第二回 JC 理事会報告、第二回 JC IPC 報告、第一回 JC COC 報告、IEW 開催に向けた状況共有、IEEE Milestone に関する関西支部対応状況共有、イベント開催報告(LMAG 技術講演会、EA イベント)、予算状況報告

審議事項: 後任 Vice Chair 選出、IEEE Milestone に対する支部対応(認定後の手順)

意見交換: 次回以降議論すべきことに関して
- 第5回理事会

開催日: 12月23日(火)

会場: 大阪工業大学 セミナー室、および Teams によるオンライン

参加者: 18名

内容: 第三回 JC 理事会報告、第三回 JC IPC 報告、第二回 JC COC 報告、IEEE Milestone 認定報告、IEEE Milestone に関する関西支部対応状況報告、イベント開催報告(IEW、SYWL)、後任 Secretary 選出状況報告、フェローおよびシニアメンバー昇格者報告、総会に向けた状況共有、予算案説明

審議事項: 選任: 後任 TPC Chair / TPC Vice Chair

選考: YP 賞、学生研究奨励賞

意見交換: 関西支部におけるチャプター活動活性化に関して

関西支部の会員数増に向けて

イベント開催における会場費削減に向けて

【2026 年活動計画】

年間 5 回の理事会開催を計画する。

4. 関西支部主催講演会

【2025 年活動報告】

Technical Program Committee (TPC)の企画により開催を推進。詳細については TPC 活動報告を参照。

【2026 年活動計画】

TPC 活動計画を参照。

5. Region 10 Meeting

【2025 年活動報告】

2 月 22 日(土)、23 日(日)に韓国の仁川で開催され、当支部からは尾上 Chair が参加。R10 の活動報告と活動計画等の情報を入手し意見交換。支部メンバーへの共有を推進。

【2026 年活動計画】

開催日：3 月 28 日(土)、29 日(日)

会場：リーガロイヤルホテル小倉

関西支部より尾上 Chair が参加予定。

6. IEW / Japan SYWL Workshop

【2025 年活動報告】

IEW、SYWL を関西支部で主催。

・ IEEE Industry Engagement Workshop (IEW) 2025 in KANSAI

開催日：12 月 12 日(金)

会場：立命館大学 大阪梅田キャンパス

開催テーマ：～大阪・関西万博の技術的側面～

プログラム：

オープニング:IEEE Japan Council 末松憲治 Chair (東北大学)

IEEE 関西支部 尾上孝雄 Chair (大阪大学)

講演1: Cranebio 株式会社 最高技術責任者 齋藤敬太 氏

「DNA オリガミ技術を活用した簡易検査システムの構築」

講演2: 大阪大学大学院 基礎工学研究科 教授 兼 ATR 石黒浩 氏

ATR インタラクション科学研究所長 宮下敬宏 氏

「「いのちの未来」パピリオンの概要と技術」

講演3: 神戸大学大学院 工学研究科 教授 寺田努 氏

「美容・健康のための常時センシングとフィードバック」

講演4: NTT 人間情報研究所 サイバー世界研究プロジェクト 島村潤 氏

「IOWN x 空間伝送

～離れた空間がひとつになるコミュニケーション体験～」

クロージング:IEEE IPC 釣谷剛宏 Chair (KDDI 研究所)

(その後、会場近隣にて懇親会)

参加者:会場参加:54名、オンライン参加:79名、合計:133名

開催風景:以下の関西支部 web site 参照

URL https://www.ieee-jp.org/section/kansai/activity/meeting_2025IEW.html

・ IEEE Japan SYWL Workshop in Kansai 2025

開催日: 12月13日(土)

会場: 立命館大学 いばらきキャンパス

プログラム:

オープニング

基調講演:「フェイクメディアの脅威ーポストリアル時代に向けてー」

(講演者:馬場口登 氏(福井工業大学 / 大阪大学)

グループディスカッション

Reporting

クロージング

開催風景:以下の JC web site 参照

URL <https://iee-jp.org/japancouncil/affinitygroup/SYWL2025/index.html>

【2026年活動計画】

継続して活動活性化を図るため、Student Branch/YP/WIE/LMAG について上位組織で開催されるイベント活動への参加を支援する。

7. マイルストーン贈呈式

【2025年活動報告】

以下の贈呈式を関西支部主催で開催。

・ 魚群探知機の商用化 (1949年)

4月25日(金)に古野電気本社にて開催された。IEEE 会長の Kathleen A. Kramer 教授から古野電気社長 兼 CEO の古野幸男氏に、業績を記した銘板が贈呈された。

・ カラープラズマテレビ (1993年)

10月31日(金)にグリーンホテル明石、11月28日(金)に新横浜プリンスホテルにて開催された。2020年 IEEE 会長の福田敏男教授から紫光技研顧問の篠田傳氏に、業績を記した銘板が贈呈された。

【2026 年活動計画】

年 2 件程度のマイルストーン認定を後押しすべく、Section support letter を発簡するとともに、認定後は贈呈式を主催する。

8. 協賛会議等

【2025 年活動報告】

- ・ 第 12 回電子デバイスフォーラム京都
主催：一般社団法人日本電子デバイス産業協会
開催日時：10 月 30 日(木) 10:00 ~ 10 月 31 日(金) 17:30
会場：京都リサーチパーク西地区 4 号館、東地区1号館
- ・ 14th IEEE CPMT Symposium Japan (ICSJ2025)
主催：IEEE Electronics Packaging Society (EPS)
開催日：11 月 12 日(水)~14 日(金)
会場：立命館大学 朱雀キャンパス
- ・ 第 78 回 アナログ技術トレンド 세미나(HAB 研セミナー)
主催：NPO 法人高周波・アナログ半導体ビジネス(HAB)研究会
開催日時：3 月 5 日(金) 14:00~17:00
会場：京都テルサ 西館 3 階 第 2 会議室
- ・ 第 79 回 アナログ技術トレンド 세미나(HAB 研セミナー)
主催：NPO 法人高周波・アナログ半導体ビジネス(HAB)研究会
開催日時：7 月 25 日(金) 14:00~17:00
会場：Web(Zoom)配信
- ・ 第 80 回 アナログ技術トレンド 세미나(HAB 研セミナー)
主催：NPO 法人高周波・アナログ半導体ビジネス(HAB)研究会
開催日時：10 月 22 日(水) 14:00~17:00
会場：京都テルサ 西館 3 階 第 2 会議室
- ・ 第 81 回 アナログ技術トレンド 세미나(HAB 研セミナー)
主催：NPO 法人高周波・アナログ半導体ビジネス(HAB)研究会
開催日時：11 月 14 日(金) 14:00~17:00
会場：Web(Zoom)配信

【2026 年活動計画】

引き続き、協賛依頼に対して適宜適切に判断し対応していく。

9. 情報発信

【2025 年活動報告】

- ・ 関西支部 Web ページ
下記ホームページで、技術講演会や活性化イベントの案内等を情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

- 電子メールの利用
総会、技術講演会、協賛会議、活性化イベント、各賞応募等の案内を当支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れた。
- R10 Newsletter
IEW などのトピックに関し、R10 Newsletter への投稿を進めた。

【2026 年活動計画】

- 関西支部 Web ページ
引き続き各種情報を発信して、会員メリットの向上に努めるとともに、ウェブサイト運営の効率化を図る。
- 電子メールの利用
引き続き、総会、技術講演会、協賛会議、活性化イベント、各賞応募等の案内を当支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く告知し情報発信に力を入れる。また、オンライン開催イベントは、当支部会員に限らず全国の IEEE 会員を対象に広く周知を図る。
- R10 Newsletter
R10 Newsletter への投稿をタイムリーに進め、当支部活動について R10 内への英語による周知を図る。

10. 各 Committee/Affinity Group からの報告

a. Membership Development Committee (MDC)

【2025 年活動報告】

第 1 回を 5 月 16 日(金)、第 2 回を 11 月 24 日(月)に MDC & SAC & YP & WIE & NC Joint Workshop を開催した。今年より NC の参加も募り、シニアメンバーだけでなくフェローへの接続性を意識した議論を行った。第 2 回の会合は対面で実施し、MDC、SAC、YP、WIE に参加している各委員の組織等を通じて IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズにするとともに、正会員からシニアへの移行を推進した。また、SAC や YP と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。

通常会員の会員数減を食い止めるため、Renew のし忘れを防ぐことを目的に 5 月と 11 月に Renew 案内メールを送信して更新を促した。また、シニアメンバーへの昇格申請がスムーズとなるよう申請のための支援を継続し、その結果 2025 年のシニアメンバー昇格者が 15 名となった。

2025 年 12 月 31 日時点での会員数は 2,301 名であり、コロナ以降の減少傾向から回復し、この十年で最も多い会員数となっている。ただし、シニアメンバーと学生会員の増加が目覚ましい一方、通常会員の数は横ばいである。

IEEE 関西 YP と SAC で合同開催したイベントである「社会人と学生の交流会」(10 月 9 日(木)開催)と「博士課程のキャリアについて語る会」(12 月 13 日(土)開催)に協賛し、MDC に所属するメンバー企業(京セラ、シャープ、日本電信電話、パナソニック、古野電気、三菱電機)より仕事内容や仕事での活躍エピソードを学生に向けて発表することで社会人と学生の相互理解を深めるなど、学生会員の IEEE への入会を勧める講演を行った。これらのイベントを通じて、IEEE パンフレットやノベルティグッズを配布し、IEEE メンバーへの勧誘とシニアメンバー昇格への案内を行った。

【2026 年活動計画】

継続して会員増に向けた活動を行う。これまでと同様に MDC/SAC/YP/WIE/NC と連携しながら、特にシニアメンバーと学生を中心とする若手の新規会員の増加に向けた活動を行う。

- ・ MDC/SAC/YP/WIE/NC Joint Workshop を年 2 回(5 月頃、11 月頃)開催し、Committee 間の情報交換、連携を通して会員数増に向けた活動を行う。
- ・ アップグレードの勧誘と申請サポートを通して、シニアメンバーの一層の増加を目指す。IEEE Computer Society Kansai Chapter の取り組みを JC-MD 会議等を通じて他 Committee、Chapter に展開し、昇格者数増の道筋を作る。
- ・ 学会や研究会における広報活動(IEEE のポスターやパンフレットの配布等)により、IEEE への入会勧誘を行う。オンライン開催によりこれが困難な場合は、ポスター・パンフレットを MDC 役員の所属機関に配布することで広報活動を実施する。
- ・ 年 2 回の Renew 促進のメールを送信し、Renew 忘れによる会員数減を防止する。

b. Nominations Committee (NC)

【2025 年活動報告】

- フェロー昇格
本年度、関西支部から京都大学化学研究所の小野輝男教授が IEEE フェローに昇格。
- TPC との共催イベント
以下の通り、TPC との共催イベントを開催。
開催日時: 7 月 28 日(月)13:30~16:00
会場: パナソニック西門真地区およびオンライン配信
参加者: 約 70 名
プログラム: 「Fellow 申請のすすめ」 浦岡行治 (奈良先端科学技術大学院大学)
「IEEE Fellow に聞く」 上田哲三 (パナソニック)、篠原真毅 (京都大学)
- NC 主催イベント(第 1 回)
以下のイベントを開催。
開催日: 5 月 19 日(月)
会場: 東レリサーチセンター
参加者: 約 20 名
内容: 「IEEE フェロー申請のすすめ」
- NC 主催 Fellow Club
NC 主催で Fellow Club を開催。
開催日: 12 月 25 日(木)
会場: 関西大学梅田キャンパス 705 号室
参加者: 約 20 名
テーマ: 「フェローの扉を開く鍵: 研究者のための戦略講演会」
講演者: 篠原真毅 (京都大学・特別ゲスト)
村田忠彦 (大阪大学)
浦岡行治 (奈良先端科学技術大学院大学)

【2026 年活動計画】

- フェロークラブ活動
出前講演会 2 か所 (候補: 京都大学、三菱電機)
フェロー申請に関する一般講演会 (候補地: 梅田)
シニアメンバー、フェローメンバー個別支援

c. Student Activities Committee (SAC)

【2025 年活動報告】

昨年に引き続き、学生会員の増強および活動支援を中心に以下の活動を行った。

- ・ 既存 7 大学(大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学)の Student Branch (SB)を中心に、会員増強、活動支援、対外活動、および SB 間の情報交換を促進した。
- ・ MDC と SAC、YP、WIE、NC と合同で Workshop を開催(5 月, 11 月)し、連携して YP 会員や女性会員を含めた会員増強および活動支援を実施した。
- ・ Student Branch Chair Meeting を 4 月 26 日(土)に関西大学にて開催した。前期の活動状況報告や今後の計画について議論し、SB 間の交流を深めた。Student Representative 兼 YP の立場として関西大学の豊岡氏にも参加いただき、YP との共同開催企画についても協議した。
- ・ SB 研究交流会を 7 月 3 日(木)に梅田にて開催した。各参加者が取り組んでいる研究の発表を行い、専門分野を越えた活発な議論が交わされた。
- ・ WIE シンポジウムを 9 月 13 日(土)に WIE との共催により、立命館大学大阪いばらきキャンパスにてハイブリッド形式(オンライン+対面)で開催した。
- ・ English Presentation Competition を 11 月 8 日(土)に SB 全体のイベントとして、LMAG および YP との共催により、立命館大学びわこくさつキャンパスにて開催した。当日は 19 名の参加があり、各自が取り組む研究内容に関して英語による発表が行われた。
- ・ AC と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。
- ・ 年末交流会(引継ぎ会)を 12 月 6 日(土)に実施し、各 SB の活動報告を行うとともに、次年度の体制および活動計画について検討した。
- ・ その他、北海道 SB との共催イベントなど、他支部の SB との交流イベントへの学生派遣を支援し、学生活動の一層の活発化に努めた。

【2026 年活動計画】

- ・ Student Branch(SB)の設立
昨年引き続き、未設置大学や高専を対象に学生会員の勧誘を行い、新 SB の設立を模索する。既設 7 大学の SB とも協力し、設立に向けた支援体制を構築する。
- ・ 学生会員活動の活発化
学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 SB との協力により、SB 未設置大学に対しても積極的にサービス提供やプロモーションを行い、関西支部全体の交流を深化させる。また、SB Chair ミーティングを継続開催し、SB 間の協力体制を強化する。さらに、LMAG、YP、WIE 等の各 AG と連携した多様なイベントを実施するとともに、各企画の会員増への寄与度を検証し、活動の最適化を図る。
- ・ 表彰および研究奨励
2004 年より続く IEEE 関西支部学生研究奨励賞を AC と共同で継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰することで研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

・ 他支部の学生活動との連携強化

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換や連携を行い、関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. Technical Program Committee (TPC)

【2025 年活動報告】

主催および共催を含め以下の表に示す計 5 回の技術講演会と、IEEE Industry Engagement Workshop (IEW) in Kansai 2025 を主催した。各講演会の前には、関西支部内外から多く方にご参加いただくべく、支部ホームページへの掲載や複数回の eNotice 発信など、広報活動も積極的に行った。

	開催日	実施形態	講演者	参加者数 (IEEE 会員)	主催・共催組織名
第 129 回	2025 年 7 月 24 日	テーマ: AI 時代の大学教育への取組みと展望			
		対面・ オンライン	保立 和夫 氏 (豊田工業大学学長 東京大学名誉教授) 石田 亨 氏 (京都大学名誉教授 インドネシア・テルコム大 学客員教授)	153 (127)	LMAG・TPC 共同主催
第 130 回	2025 年 7 月 28 日	テーマ: IEEE フェローに聞く! 高周波・パワーデバイス/ワイヤレス電力伝送の各研究成果とフェロー申請のポイント			
		対面・ オンライン	上田 哲三 氏 (パナソニックインダストリー 株式会社) 篠原 真毅 氏 (京大大学生存圏研究所 教授)	103 (45)	NC・TPC 共同主催
第 131 回	2025 年 9 月 17 日	テーマ: 人工知能と防災 ～地震研究への取組みと展望～			
		対面・ オンライン	上田 修功 氏 (国立研究開発法人理化学 研究所) 岡崎 智久 氏 (国立研究開発法人理化学 研究所) 市村 強 氏 (東京大学地震研究所 教 授 国立研究開発法人理化学 研究所 客員研究員)	89 (84)	LMAG・TPC 共同主催 (第 4 回シンギュラ リティ技術講演会)

第 132 回	2025年 9月18日	テーマ：風計測におけるイノベーション ～”光ファイバ型ライダー”とともに 体感した技術開拓から普及に至るプロセス～			
		オンライン	亀山 俊平 氏 (三菱電機株式会社)	91 (72)	東京支部 TPC 主催/ 関西支部 TPC ・ 東京支部 LMAG 共催
第 133 回	2025年 11月25日	テーマ：ロボティクスの新たな展開 ～人が心を感じるロボット～			
		対面（現地見学会含む）・ オンライン	美濃 導彦 氏 (国立研究開発法人理化学研究所) 吉野 幸一郎 氏 (東京科学大学情報理工学院准教授・国立研究開発法人 理化学研究所)	106 (86)	LMAG・TPC 共同主催
IEW	2025年 12月12日	テーマ：大阪・関西万博の技術的側面			
		対面・ オンライン	齋藤 敬太 氏 (Cranebio 株式会社 最高技術責任者) 石黒 浩 氏 (大阪大学大学院基礎工学研究科 教授 兼 ATR) 宮下 敬宏 氏 (ATR インタラクシオン科学研究所長) 寺田 努 氏 (神戸大学大学院工学研究科 教授) 島村 潤 氏 (NTT 人間情報研究所)	133 (85)	関西支部・JC 共催

第129回講演会では、東京大学/豊田工業大学の保立氏と京都大学/インドネシア・テルコム大学の石田氏をお招きし、「AI時代の大学教育への取組みと展望」をテーマに、AI時代だからこそ単なる知識の習得だけでなく、本質的な理解に至ることの重要性について議論した。

第130回講演会は、Nomination Committee の Fellow Club に続けて開催し、IEEE Fellow の京都大学 篠原氏とパナソニック 上田氏にご登壇いただき、各分野の最新研究成果や IEEE 昇格のポイントを紹介し、会員・非会員双方に向けて IEEE 活動への参画を促した。

第131回講演会は、シンギュラリティー技術講演会の第4回として開催した。講演者として理研の上田氏、岡崎氏、市村氏をお招きするとともに、後半はパネリストとして防災科学研の藤原氏と気象庁の川端氏を加えたパネルディスカッション形式とした。AI と防災の最新動向について講演いただくとともに、パネルディスカッションでは分野横断的な連携の重要性について活発な議論が行われた。

第132回講演会は、東京支部 TPC との共催で、三菱電機の亀山氏(関西支部 前 Secretary)に、「風計測のイノベーション」と題してご講演いただき、技術開発から普及までのプロセスについて実体験を交えてご紹介いただいた。

第133回講演会は、ロボティクスの新たな展開 ～人が心を感じるロボット～と題して、理化学研

究所(京阪奈)にて開催した。講演では、近年における生成 AI の進化による自律的な判断や環境適応能力の向上により、人と共存し支援するロボットの可能性が飛躍的に広がっていることが紹介された。講演後の現地見学会は、次世代ロボットの可能性を体験する機会となった

12月12日(金)には、2015年からMetro Area Workshop(MAW)として開催され、昨年(2024)の東京開催からIndustry Engagement Workshop(IEW)と改称されたワークショップを、IEEE関西支部とIEEE JCの主催で開催した。2025年は、大阪・夢洲において大阪・関西万博が開催された年であることを踏まえ、「大阪・関西万博の技術的側面」のテーマで開催した。大阪・関西万博で非常に人気のあった「いのちの未来館」、「大阪ヘルスケアパビリオン」、「NTTパビリオン」の展覧に携わった講師陣による技術的側面の講演を通じて、未来社会に必要な技術開発や課題について理解を深めた。単なるパビリオンの紹介ではなく技術的側面を深掘りした講演会とすることで、万博が開催された年に、万博が開催された関西地区で開催するワークショップとして相応しい内容とすることができ、多くの方にご参加いただくことができた。

【2026年活動計画】

引き続き、技術講演会の開催を主たる活動として位置づけ、年4回程度の技術講演会の開催を目指す。企画に際しては、複数のChapterにまたがる横断的分野や、市場や技術の最新動向に関する講演会とするべく検討を進める予定である。

e. Awards Committee (AC)

【2025年活動報告】

昨年度に引き続き、学生会員および若手会員を対象として「IEEE関西支部 Young Professionals 賞」の公募を実施した。本年度は6月1日(日)に募集を開始し、10月3日(金)を応募締切日とした。あわせて、応募者からの支援資料を10月24日(金)まで受け付け、当委員会における選考を経て、12月23日(火)開催の支部理事会において、「大学や研究所の若手会員」部門の受賞者1名を決定した。

また、「IEEE関西支部学生研究奨励賞」についても、従来どおりSAC(Student Activities Committee)と合同で審査委員会を設置し、審査を行った。本賞についてもYoung Professionals賞と同様に6月1日(日)より募集を開始し、10月3日(金)を応募期限として受け付けた。当委員会およびSACによる選考の結果、12月23日(火)の支部理事会において受賞者4名を決定した。

【2026年活動計画】

従来から実施してきた厳正な選考プロセスを引き続き堅持するとともに、応募者数のさらなる増加を図る。「IEEE関西支部 Young Professionals 賞」および「IEEE関西支部学生研究奨励賞」を、それぞれ若手会員および学生会員の拡充を目的とした施策として明確に位置づけ、関西支部が関与する各種研究集会やメーリングリストを通じて、これらの賞の周知をこれまで以上に積極的に行う。

なお、2025年の応募件数は前年度とほぼ同水準であったことから、応募数の増加を目指してSACと連携しつつ、Student Branchにおける活動などIEEEへの貢献が顕著な学生会員に対し

積極的に応募を呼びかける。また、「学生会員」部門および「企業の若手会員」部門において応募がなかったことを踏まえ、これら区分に該当する会員に対しても本賞への応募をより一層促進する。

f. Chapter Operations Committee (COC)

【2025 年活動報告】

本年度は、以下の 3 つに取り組んだ。

- 1) JC COC (Chapter Operations Committee) ミーティングの内容を議事メモとしてまとめ、関西支部 (Section) 理事会において共有した。
- 2) 本年度より Chapter 支援費申請審査業務が関西支部へ移行したことを受け、COC Chair および Secretary と連携して、以下の申請に対する審査を実施した。必要に応じて JC COC へ確認しつつ、審査の迅速化と判断基準の明確化を心がけた。あわせて、審査時の留意事項および改善点を整理し、今後に向けた知見として蓄積した。

- AP-S Kansai Joint Chapters 特別講演
- CS Kansai Chapter DVP Lecture for Researchers and Engineers in Kansai
- CS Kansai Chapter DVP Lecture for Students in Kansai
- MTT-S Kansai Chapter 第 18 回マイクロ波英語発表会
- MTT-S Kansai Chapter 「マイクロ波と量子コンピュータ」ワークショップ
- CASS Kansai Chapter Best Student Presentation Award
- MTT-S Kansai Chapter and AP-S Kansai Joint Chapter 合同若手技術交流会 2025
- EDS Kansai Chapter 国際会議 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai 2025
- CS Kansai Chapter Young Author Award
- EDS Kansai Chapter of the Year Award
- EDS Kansai Chapter MFSK Award

- 3) 理事会における議論を踏まえ、Section と Chapter の連携・支援のあり方について検討した。Section と Chapter との連携が属人化しており接点が乏しいこと、せっかくの Chapter 活動が平時に理事会で見えづらいこと、JC COC ミーティングでの Chapter 報告が Chapter 間連携や意思決定につながりにくいこと、産業界ニーズの窓口が Chapter 側に偏在し、十分に集約・共有されていないこと等を課題として整理した。

【2026 年活動計画】

2025 年における 3 つの取り組みを継続・発展させる。

- 1)、2) に関連して、JC COC では、2026 年中に Chapter 支援費の申請から報告までを kintone で一元管理できるよう、アプリ改修を計画している。これらの動向を継続的にフォローし、関西支部における運用への反映と迅速な展開を図る。さらに、Chapter 支援費申請の審査実績を体系的に蓄積し、その知見に基づいて、関西支部所属各 Chapter に配布している「IEEE Chapter 支援について(2022 年 9 月 21 日)」の内容を更新する。

3) に関連して、2025 年に整理した課題を踏まえ、Chapter 活動の可視化と情報共有の改善に向けた検討を継続する。具体的には、理事会での共有方法(報告頻度・様式)の整備や、Section Web 等を通じた告知・導線の改善について、関係者と協議しつつ実現可能な範囲から試行する。また、Chapter からの要望や産業界ニーズの把握・集約の方法についても、運用負荷に配慮しながら整理を進める。

g. Life Members Affinity Group (LMAG)

【2025 年活動報告】

・ 人工知能の応用と展開

生成 AI をはじめとする AI 技術の革新的発展により、生活の各所に人工知能の応用が始まっている。どのような技術がどのような形で生活に浸透し、日々のライフスタイルを変えていくのか、こういった関心から「人工知能の応用と展開」をテーマに、2025 年の技術講演会を開催した。特に、「大学教育」、「防災」、「ロボティクス」の 3 つの分野において、実際に応用されている人工知能の技術とその効果を中心に、俯瞰的立場と技術的立場の両サイドから掘り下げた講演であった。10 年前までは、「人工知能」という言葉だけが存在していた状況だったが、この 10 年で確実に効果をもたらし、必要な技術となり、今後一層発展していくものと実感された。

・ 多様な形態のハイブリッド配信

本年度に開催した技術講演会は、いずれもハイブリッドで開催した。ハイブリッドと言えば通常、講師による講演と質疑応答が中心だが、毎回この形態だと視聴者に情報は提供できても、楽しんでもらうことができない。そこで、2025 年は講演に加えてパネル討論や現地体験を試行した。具体的には、「防災」では人工知能的立場から研究している研究者もいれば、防災的視点から研究している研究者もいるため、そういった視点の異なる立場が存在する研究分野では、パネル討論により議論を深めることが効果的と考えられた。また、IEEE の会員の多くは技術者であり、新しい技術に直接触れて理解したいという思いが強いと思われる。例えば「ロボティクス」では、講演を聞くだけでなく実際にロボットと対話しインタラクションした方が楽しく理解し易くなる。この点から 2025 年の講演会では、「ロボティクス」を現地見学会として実施した。現地見学会では、ロボットとの対話の状況を音声や映像を通してクリアーに配信することは難しく、今後課題が残された。

・ AI 時代の大学教育への取組みと展望

7 月 24 日(木)に上記テーマで講演会を開催し、153 名(会場 19 名、オンライン 134 名)が参加した。冒頭、関西 LMAG Chair より開会の挨拶があり、本技術講演会の趣旨説明が行われた。その後、豊田工業大学学長、東京大学名誉教授の保立和夫様より、「AI 時代にこそ大切な「知識を理解に昇華させる」教育への取組みと展望」と題して講演が行われた。AI 時代だからこそ大学での学習は単に知識を覚えるのではなく、「本当の理解に到達する」努力をすることが重要であると述べられた。続いて、京都大学名誉教授、インドネシア・テルコム大学客員教授の石

田亨様より、「生成 AI が変える高等教育 ～インドネシア Telkom 大学の実験から～」と題して講演が行われた。インドネシア Telkom 大学の実験をもとに、教育面では成果重視からプロセス重視への転換が必要であり、学習面では学生の LLM 利用におけるリテラシーの向上が最大の課題であると述べられた。講演終了後の懇親会には 13 名が参加し、講演者を囲んで、多様性に富んだ議論が楽しまれた。



講演会集合写真



懇親会

・ 人工知能と防災～地震研究への取り組みと展望～

9月17日(水)に上記テーマで技術講演会を開催し、89名(会場出席者20名、オンライン参加者69名)が参加した。冒頭、関西 LMAG Chair より開会挨拶があり、本講演会の趣旨説明が行われた。

まず、国立研究開発法人 理化学研究所 革新知能統合研究センター 副センター長、防災科学チームディレクターの上田修功様より、「人工知能技術による防災への取り組み」と題して講演が行われた。次に、同じく理化学研究所 革新知能統合研究センター 防災科学チーム研究員の岡崎智久様より、「物理法則を組み込んだ深層学習による地殻変動解析」と題して講演が行われ、最後に東京大学地震研究所 教授、理化学研究所 革新知能統合研究センター 防災科学チーム 客員研究員の市村強様より、「HPC × AI による地震シミュレーション」と題して講演が行われた。講演後には、国立研究開発法人 防災科学技術研究所 研究共創推進本部 先進防災技術連携研究センター 研究主監の藤原広行様と、気象庁気象研究所 気象観測研究部 第3研究室 室長の川端拓也様をディスカッションに迎え、講演者の方々と共にパネルディスカッションが行われた。講演会終了後、18名の参加を得て、大阪工業大学梅田キャン



講演会集合写真



懇親会

パス内レストランにて懇親会が行われ、講演及びパネルディスカッションに参加頂いた上田様、岡崎様、市村様を囲んで、楽しく有意義な歓談の場を持った。

・ ロボティクスの新たな展開 ～人が心を感じるロボット～

11月25日(火)に上記テーマで現地技術講演会を開催し、80名(会場参加者22名、オンライン参加者58名)が参加した。冒頭、関西 LMAG Chair より開会の挨拶と開催趣旨の説明が行われた。

その後、理化学研究所 情報統合本部 ガーディアンロボットプロジェクト プロジェクトディレクターの美濃導彦様より、「ガーディアンロボットプロジェクトが目指すところ」と題してご講演が行われた。プロジェクトで開発されたロボットとして、表情筋の動きを再現し13感情を表出する対話型ロボット Nikola、人の動作意図を読み取り、ほど良い手助けができる装着型ロボット Aetro、そして人と一緒に生活することを目指すパートナーロボットの Indy が紹介された。続いて、東京科学大学 准教授および理化学研究所のチームディレクター 吉野幸一郎様より、「実世界で対話するロボットを目指して」と題して講演が行われた。講演終了後、参加者はロボット見学会場に移動し、3体の自立学習ロボット(Nikola、Aetro、Indy)とそれぞれ約5分間の対話を体験した。講演会及び見学会終了後、15名の参加を得て、けいはんなプラザ内のレストランにて懇親会が行われた。講演いただいた美濃様、吉野様を囲んで、楽しく有意義な歓談の場を持った。



講演会集合写真



懇親会

・ 第5回 IEEE 関西支部 EA イベント

関西支部他団体との連携として9月5日(金)に立命館大学 大阪梅田キャンパスにて、「最先端技術を英語で語ろう～技術コミュニケーションの基本的要素～」と題して、ハイブリッド形式で開催され、LMAG 関西支部はこれを共催した。2021年から若手研究者や高校生を奨励する関西支部教育活動に協力しており、LMAG 関西 小林 Former Chair が支援し、LMAG 関西 有木 Chair も参加した。



EA イベントの集合写真

- IEEE 立命館大学学生支部英語プレゼンテーションコンペティション 2025

IEEE 関西支部学生支部が主催する上記コンペティションが 11 月 8 日(土)に立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて開催され、LMAG 関西支部が共催した。LMAG 関西 石田亨 Vice Chair が審査員の一人として参加した。19 件の技術発表が行われ、4 つの賞に 4 名が表彰された。関西 LMAG からは「LMAG 賞」を贈呈した。



LMAG 賞の贈呈

- WIE シンポジウム

IEEE 関西支部 WIE(Women in Engineering)アフィニティグループが、工学系・情報系で活躍する女性研究者の活動を紹介し理工系分野でのキャリアの魅力を発信する目的で、第 12 回 WIE シンポジウムを 9 月 13 日(土)に立命館大学いばらきキャンパスにてハイブリッド形式で開催した。LMAG 関西役員も参加した。

- IEEE Japan SYWL Workshop in Kansai 2025

日本国内の Student Branch、Young Professionals、Women In Engineering and Life Members (SYWL)の代表者が参加し、「Engineers, be ambitious!」のテーマで議論を行った。12 月 13 日(土)に、立命館大学いばらきキャンパスにてハイブリッド形式で開催され、LMAG 関西からは Chair と Vice Chair が参加した。

- LMAG 役員会議

本年度はオンラインで 8 回の役員会議を開催した。3 月 17 日(月)には、2025 年の新ライフメンバー歓迎会をオンラインで開催し、新メンバー 4 名と LMAG 関西役員 6 名が参加した。参加者は幅広いトピックについてトークを楽しんだ。また、R10 LMAG ミーティングが 4 回、JC LMAG ミーティングが 3 回オンラインで開催され、LMAG 関西の有木 Chair が参加した。



新ライフメンバー歓迎会

【2026 年活動計画】

LMAG 関西での活動をさらに強化していきたいと考えている。新年度に向けた現在の計画を以下に示す。

- LMAG 関西役員会議を約隔月で開催
- LMAG 技術講演会・現地講演会(見学会)を、ハイブリッド形式で 3 回以上開催
- LMAG 関西の新メンバーの歓迎会を開催
- YP、WIE AG や SB のイベントに共催・協賛

- ・ 教育活動(EA)と Student Branch 英語プレゼンテーションコンペティションを支援
- ・ 年に一度、LMAG 関西ニュースレターに掲載し、活動を会員に広く報告し参加を呼びかける

h. Women In Engineering Affinity Group (WIE)

【2025 年活動報告】

(1) Kansai WIE シンポジウム

4月25日(金)に立命館大学大阪茨木キャンパスで Kansai YP と共同で技術講演会を行った。TSMC グループの入江和幸氏に「Chiplet の最新技術~2D から 3D へ~の設立」というテーマで講演をお願いした。さらに、毎年秋開催の WIE シンポジウムについては例年より1か月早い開催としたため準備期間が短かったが、10周年の時と同様に本年も記念品とポスターの作成を行った。今年の記念品は災害ボトルを準備した。また、例年通り対面による参加を中心に考えつつ、ほかのエリアの WIE をはじめ、より遠方からの方々にも参加してもらえるよう開催方法を検討した結果、オンラインと現地開催のハイブリッド方式での開催とした。

9月13日(土)に立命館大学茨木キャンパスとオンラインで「IEEE Kansai WIE シンポジウム 2025 12th」を開催した。共催に IEEE Kansai Section Young Professionals Affinity Group、IEEE Kansai Section Educational Activities、IEEE Kansai Section Life Member Affinity Group、IEEE Student Branch at Osaka University、IEEE Student Branch at University of Hyogo、IEEE Student Branch at Ritsumeikan University、IEEE Student Branch at Kyoto University、IEEE Student Branch at Kansai University、IEEE Student Branch at Doshisha University、IEEE Student Branch at Nara Institute of Science and Technology、IEICE Kansai Section、協賛に日本知能情報ファジィ学会にご協力いただいた。さらに、音響学会関西支部、ヒューマンインターフェース学会などのメンバーへのメーリングリストなどでの告知のご協力など、特に広報に関して協力し準備を行った。シンポジウム前半では、例年通り女性技術者や研究者に講演を依頼し、話をさせていただいた。講演タイトルは、同志社女子大学教授 和氣早苗氏による「人と情報と音、企業と大学と生活、理と文と芸」、龍谷大学助教 高原まどか氏による「辛いときとあえず寝たら何とかなった話-失敗をネタにする関西人的思考と睡眠至上主義のススメ」、オムロン株式会社、技術専門職 柳川由紀子氏による「Connect, learn, Innovate」である。シンポジウムの後半は、現地参加の方々とオンライン参加の方々に分けて、グループトークを実施した。テーマは「科学とテクノロジーと人生を楽しむためのヒント」である。シンポジウムへの参加者は 65 名となった。講演者はアカデミックおよび企業の研究者をお呼びした。関西の主な大学の



男女参画推進室への案内を行い、更には関西圏の大学や高校へのポスター送付も行った効果が見られたが、開催日が9月半ばで大学は夏休みであったことなども重なり、例年よりは集客人数が少なかった。本シンポジウムはWIE AGの年間活動の軸となるイベントとして、開催形態は問わずに「関西の」女性技術者・研究者、理系の女子大学院生・学部生、そして理系進路選択を考える女子高校生のエンパワメントを目的として継続していく予定である。

(2) 役員会

- 2025年 第1回委員会
開催日：3月13日(木)
会場：オンライン開催
- 2025年 第2回委員会
開催日：6月11日(水)
会場：対面、及びオンライン開催
- 2025年 第3回委員会
開催日：7月4日(金)
会場：対面、及びオンライン開催
- ポスター配布準備等
開催日：8月6日(水)
会場：対面開催
- 2025年 第4回委員会、及びシンポジウム
開催日：9月3日(水)
会場：対面、及びオンライン開催
- 2025年 第5回委員会
開催日：12月15日(月)
会場：対面、及びオンライン開催

【2026年活動計画】

2025年は4月に技術講演会を行い、10月に恒例であるシンポジウム以外にも講演会を行うなど積極的に活動をしてきたので、2026年も同様にここで得た活動経験を活かし、更なる活性化を図っていく。

- Kansai WIEの活動を紹介するパンフレットを作成し、活動の広報を強化する。
- WIE活動に賛同するメンバーを積極的に募り、運営体制を強化する。
- 女性研究者・技術者を応援するためのシンポジウムを開催する。理系の女子大学院生や学部生の近い未来のキャリア支援、さらに理系進路を考える高校生への進路選択の一助となるような内容も含めることで、参加者層を拡張する。
- Student Branch、YP、LMAG、JC WIE、他学会の女性支援関連活動などと連携しながら、関西でのWIE活動を推進する。

i. Young Professionals Affinity Group (YP AG)

【2025 年活動報告】

SAC、MDC、WIE AG、EA、SB と連携し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進するためのイベントを企画、共催した。また、他 Section の YP AG との合同イベントや Chapter との合同イベントを 2 件開催し、Kansai Section の YP AG として国内の若手技術者の交流及びキャリアアップ支援を行った。

以下、主なイベントの一覧。

[主催/共同主催]

- IEEE Kansai WIE/YP 技術講演会 (共同主催)
開催日: 4 月 25 日(金)
- Overleaf 勉強会 (主催)
開催日: 5 月 31 日(土)
- 第 4 回 社会人と学生の交流会 (主催)
開催日: 10 月 11 日(土)
- 第 7 回 博士課程のキャリアについて語る会(Kansai YP, HSF YP 共同主催)
開催日: 12 月 13 日(土)

[共催]

- IEEE Kansai Section 第 5 回 EA イベント
開催日: 9 月 6 日(土)
- IEEE Kansai WIE シンポジウム 2023
開催日: 9 月 13 日(土)
- The 22nd English Presentation Competition in Ritsumeikan
開催日: 9 月 24 日(水)

[後援]

- Student Branch 交流ワークショップ 2025
開催日: 12 月 18 日(木)、19 日(金)
- Board Meeting
(毎月開催)

[主催イベント報告]

- YP AG 主催イベント「Overleaf 勉強会」

本イベントは若手技術者のスキルアップを目的として実施した、オンライン LaTeX エディタである Overleaf の勉強会である。Overleaf はブラウザで編集することができるオンライン LaTeX エディタであり、LaTeX は現在、論文作成や文書作成などに広く用いられている。本勉強会では Overleaf の使い方や LaTeX の基礎、外部サービスとの連携について紹介し、演習課題によるハンズオンを通して TeX で良く使用される文法を入力し、Overleaf の使い方の体感と理解をゴ

ールとした。また、本イベントは IEEE Computer Society との共催で実施した。

開催日時: 5月31日(土)

13:00~13:10	開会挨拶、勉強会の進め方の説明
13:10~13:45	講演 1: Overleaf の使い方
13:45~14:05	(休憩)
14:05~15:30	講演 2: LaTeX の文法
15:30~15:40	(休憩)
15:40~16:20	講演 3: integration ツールとバックアップ・オフロード方法の紹介
16:20~16:25	IEEE YP 活動紹介
16:25~16:30	閉会挨拶

会場: グランキューブ大阪 会議室 801, 802 + オンライン (Zoom Meeting)

(〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 5 丁目 3-51)

・ YPAG 主催イベント「第4回 社会人と学生の交流会」

本イベントは YPAG と関西支部内 SB との連携強化を目的とし、Membership Development Committee (MDC) に所属する社会人メンバーに仕事内容や仕事での活躍エピソードを学生に向けて発表いただくことで、互いに交流の機会が少ない社会人と学生が交流し相互理解を深めるイベントである。今回は、従来の講演形式からフリーディスカッション形式に変更し交流を行った。

開催日時: 10月11日(土)

14:00~14:10	開会のあいさつ・本イベントの説明
14:10~14:40	講演者様のご紹介
14:40~14:50	(休憩)
14:50~16:10	フリーディスカッション
16:10~16:20	ラップアップ
16:20~16:30	閉会挨拶

会場: 梅田スカイビル 会議室 B

(〒531-6023 大阪市北区大淀中 1-1-88)

・ YPAG 合同主催イベント「第7回博士課程のキャリアについて語る会」

本イベントは、現役の博士後期課程の学生および博士学位取得後に大学や企業に就職した方々を招き、ご講演およびグループディスカッションを通じて、学生会員を主体として自身のキャリアについて考えるイベントである。また、YPAG としての横断的な結束力の強化として、隣接支部の HSY-YPAG と連携しながらイベント運営を行なった。さらに、イベント開催前の午前中に同会場へ JC のフラグシップイベントである IEEE JAPAN SYWL WORKSHOP in Kansai 2025 を誘致することで、支部を超えた地域ネットワークの強化と参加者増を試みた。

開催日時: 12月13日(土)

14:00~14:05	開会の挨拶
-------------	-------

14:05～15:00	講演1, 2
15:00～15:05	(休憩・場面転換)
15:10～15:35	講演3
15:35～16:55	グループディスカッション
16:55～17:15	お知らせと閉会の挨拶

会場: 立命館大学 いばらきキャンパス H221 教室

(〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150)

【2026 年活動計画】

引き続き支部内で連携イベントを実施し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進する。また、IEEE Japan YP Career Lab 2026 を HSF YP と合同で主催することを予定している。全国各地に YP AG メンバーを派遣してネットワーキングやキャリアアップ活動を行うことで、新規 YP 会員の獲得および他支部から転入した YP 会員の継続的な YP 活動支援を目指す。

j. Educational Activities (EA)

【2025 年活動報告】

2020 年後半に JC より各支部から担当を出すよう依頼があり、当時の田邊 Past TPC Chair が新たに関西支部における EA Chair に選出され活動を開始した。

EA は、IEEE 本部のある米国では以前から活発に活動をしており、IEEE 会員、会員以外の IEEE 技術に関心のある一般、高校生などに向け、関連技術教材の作成、無料の技術講演会、ワークショップなどを開催する教育的啓蒙活動を行っている。米国で作成した教材は非常によく出来たものであるが、使用言語が英語であり、自動翻訳では十分に意味が取れない難点があるため日本語化はされていない。そのため、Region 10 の中でもインドなども含め、ローカルの言語での EA 活動が呼びかけられており、福田 Past IEEE President の強い働き掛けもあり、2021 年より JC 取りまとめで活動を興した。とはいえ、IEEE の特徴は最先端の技術を英語で学べるところにあり、「英語で学ぶ先端技術」を大テーマとして、高校生、大学生、若手エンジニアが、直に英語で講演や文献に触れ、英語で技術を理解し、技術ディスカッションが出来ることをサポートしていく。

以下、9月6日(土)にハイブリッド形式(現地:立命館大学 大阪梅田キャンパス)で開催した「第5回 IEEE 関西支部 EA イベント」の内容を紹介する。本イベントでは、「講演」、「インタラクティブディスカッション」に加えて、「IEEE Japan Office による IEEE と教育教材の紹介」を行った。

・ 第5回 IEEE 関西支部 EA イベント

開催日時: 9月6日(土) 13:00～16:30

会場: 立命館大学 大阪梅田キャンパス 多目的室+演習室2

(大阪市北区小松原町 2-4 大阪富国生命ビル 5階)

参加者: 28名(現地16名、オンライン12名)

プログラム:

13:00～13:10 あいさつ、概要説明など

● 第 1 部:

13:10～14:10 講演:

「日本の EFL(外国語としての英語)教育におけるゲームベース学習と
コンピュータ支援言語学習の展開」

“Evolving Game-Based and Computer-Assisted Language
Learning in the Japanese EFL Context”

講演者: Jeremy White 教授 (立命館大学 情報理工学部)

本講演では、コンピュータ支援言語学習 (CALL) とゲームベース学習 (GBL) の交差点に注目し、その発展と語学教育における重要性の高まりについて探った。はじめに、CALL と GBL の概要を紹介し、教育技術の進化や、学習者主体のインタラクティブなツールの導入による変化を概観し、続いて、日本の英語学習者に対する自身の教育・研究経験をもとに、これらのアプローチの具体的な実践例や成果、そして直面する課題について考察した。特に、ゲームを取り入れた学習環境における学習者の動機づけや文化的要因にも焦点を当てた。最後に、今後の CALL および GBL の展望として、「柔軟性」「包摂性」「学習者の主体性」を重視した方向性を提案し、これらのツールが真に効果を発揮するためには、単なる目新しさにとどまらず学習者の多様なニーズや実践的なコミュニケーション能力に応える教育的に効果的な設計が重要であると主張します。



● 第 2 部:

14:30～14:45 IEEE Japan Office による IEEE と教育教材の紹介

「Try Engineering」:

4 歳～18 歳までを対象として工学の概念を教えるレッスンプラン

(現時点で 134 個)を提供

Pre-university STEM education Programs



「IEEE Learning Network」:

プロフェッショナル向け。各専門分野についてスキルアップのための

e-Learning コースプログラム (現時点で 1466 個)を提供

Continuing Education Courses



14:35～16:20 インタラクティブディスカッション

「人工知能の活用と未来を考える: 教育から社会へ、技術から倫理へ」

人工知能(AI)技術の飛躍的発展は、社会のあらゆる側面に浸透していき、教育・研究・産業はもとより、行政、医療、メディア、そして日常のコミュニケーションまで、AI は人間の活動に深く入り込み、そのあり方に変革をもたらしている。本イベントでは、語学教育における AI 活用をも主題とした講演を出発点に、AI の活用と未来について多角的な議論を展開した。

16:20～16:30 会長挨拶

当日は、IEEE 関西支部 EA に加えて、IEEE Japan Council、IEEE Japan Office、関西支部 WIE、関西支部 YP、関西支部 LMAG、関西支部事務局のご協力により設営および運営を行った。当日 9:30 にイベント会場を開場し、スクリーン投影確認、会場マイク確認、ハイブリッド環境確認、配布物確認および控室での昼食対応の後、定刻通り 13:00 よりイベントを開始し、16:30 に予定通り終了した。その後、現地撤収作業および郵送作業も 16:50 に完了した。

次年度に向けての引継ぎ事項として、IEEE 本部で使用している教材の上映許可が下りず、計画を変更して今回は講演者の White 先生の講演を基にディスカッションを行った。2026 年度に向けては、IEEE 教材の公的利用について粘り強く交渉した上で、新たな試みを提案する方針である。また、今回はハイブリッド環境における「Zoom の翻訳機能」の導入も試みたが、安定した運用を実現できなかった。こちらも 2026 年度に向けて十分な事前テストを行った上で、導入の可否を改めて判断する所存である。

【2026 年活動計画】

8 月後半、または 9 月初旬の土曜日に EA イベント開催を予定する。大テーマとして「英語で学ぶ先端技術」は引き続き維持し、高校生、大学生、若手エンジニアが英語で先端技術を学ぶ機会を作り、その能力向上をサポートしていく。但し、関西支部 EA として独自に教材を作成することはマンパワーの問題もあり、行わない。高校生などにとっても、技術を英語で学ぶことは有益であり、本部の英語教材で内容的によく出来ているものは、積極的に紹介していく。

EA 単独ではマンパワー不足であり、TPC、WIE、LMAG、YP などの協力をお願いし、JC や他支部とも協力して活動を盛り上げていく。会員各位のご協力をお願いすると同時に、活動に対する提案をお待ちしている。今年も国内学会との差別化として IEEEらしく英語の強化をしたい。関西支部の外国籍の方なども、巻き込んでいきたいと考えている。

米国本部では EA は重要視されているが、日本では始まったばかりで認知度が低い。また、組織として支部マンパワーを有していないため、経験のある人や支部内で顔が利く人でないとイベント企画もままならない。経験豊富なベテランでなくても遂行できる、つまり、より多くの方に就いていただけるような準備も支部で行う予定である。また、取り上げる内容は高校生や文系の方にはやや背伸びが必要なものを考えているが、そういった分野やレベルの英語に「慣れて」いただくことを目標としたい。

11. Chapter 活動

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

【2025 年活動報告】

2024 年に引き続き、コロナ禍以来一般的になったオンラインを活用することでイベント集客力を上げるとともに、オンライン全盛だからこそリアルならではの良さを活かすため、リアルメインの活動も行った。

[主催]

・ IEEE Kansai EDS ラウンドテーブルワークショップ

開催日時: 7月 22日(火) 13:00~17:00

会場: ローム株式会社 京都ビジネスセンター

参加者: 11名(参加登録者:11名)

内容: 「ニューロモルフィックの研究紹介」	木村 睦先生 (龍谷大学)
「ローム R&D の研究紹介」	中原 健 (ローム(株))
「上手く行かなかった開発について」	櫻野 勝之 (リコー(株))

・ IEEE Kansai EDS ラウンドテーブルワークショップ 2

開催日時: 10月 31日(金) 13:00~17:00

会場: ローム株式会社 京都ビジネスセンター

参加者: 9名(参加登録者:13名)

内容: 「前元研究室の研究内容紹介」	前元 利彦先生 (大阪工業大学)
「ARIM 紹介」	渡邊 博文 (Watanabe 技術コンサルティング)
「過去の失敗開発事例について」	中原 健 (ローム(株))

上記 2 件は、産学連携を進めるために大学の先生からは自らの研究紹介を、企業からは「赤裸々な」話をして困り事相談をしやすくする、という目的で実施した。リアル開催のみのため参加者は少ないが、少ない分密にコミュニケーションがしやすい。大学側の悩みなども聞くことができ、大変有意義であった。今後も出来るだけ回数を重ねて所属委員間の交流を密にする。

・ 第 25 回 関西コロキウム電子デバイスワークショップ

開催日: 10月 3日(金)

会場: オンライン(Zoom)開催

内容: 講演件数: 9 件 / 出席者数: 25 名

URL

https://www.ieee.jp/org/section/kansai/chapter/eds/2024/The_24th_Kansai_Colloquium_Electron_Device_Workshop.pdf

2024 年度に国際会議での発表講演、または主要ジャーナルに掲載された論文の中から関西に拠点を置く大学・企業等の研究者による発表を抽出・厳選して、投稿と同じ内容を本 Colloquium にて講演して頂いた。その中から特に優秀と認められるものを表彰し、賞状と盾を授与する。

- ・ IMFEDK 2025 (The 2025 International Meeting for Future Electron Devices, Kansai)

開催日：11月13日(木)～14日(金)

会場：龍谷大学 深草キャンパス 成就館&オンライン(Zoom)開催

内容：講演件数:35件 / 参加登録者:182名 / Zoom 参加アカウント 82 接続先

URL <https://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/imfedk/>

EDS Kansai Chapter の唯一かつ最も権威ある国際会議である。Keynote として柳谷先生(早稲田大学)・招待講演者7人の皆様からご講演いただくとともに、口頭講演・ポスター講演(ショートプレゼン付き)があった。IMFEDK Best Paper Award の1件とIMFEDK Student Paper Award の3件が選出された。一昨年、昨年に引き続きオンサイトとオンラインのハイブリッド開催であった。IMFEDK 開催費用は、Chapter 支援費利用事業である。

[後援]

- ・ NEDIA 第12回 電子デバイスフォーラム京都

開催日：10月30日(木)、31日(金)

会場：京都リサーチパーク(KRP)

- ・ AM-FPD '25

開催日：7月1日(火)～4日(金)

会場：龍谷大学 深草キャンパス 成就館

[委員会]

- ・ IEEE Electron Devices Society Kansai Chapter 総会・委員会

開催日：4月23日(水)

会場：オンライン(Zoom)開催

参加者：11名

- ・ IEEE Electron Devices Society Kansai Chapter 委員会

開催日：8月21日(木)

会場：オンライン(Zoom)開催

参加者：18名

- ・ IEEE Electron Devices Society Kansai Chapter 総会・委員会

開催日：11月6日(木)

会場：オンライン(Zoom)開催

参加者：11名

【2026年活動計画】

2025年とほぼ同様に、オンサイト開催とオンライン開催の両方を活用して、以下の行事を予定している。若手研究者も対象とした国際会議や講演会の開催を通じて、質の高い講演と技術情報の提供を行うとともに、会員獲得につなげることも目標とする。

[主催]

- ・ ラウンドテーブルワークショップ

- ・ 関西コロキウム電子デバイスワークショップ
- ・ IMFEDK (International Meeting for Future Electron Devices, Kansai)

[委員会]

- ・ IEEE Electron Devices Society Kansai Chapter 総会 2 回・委員会 4 回

[URL]

[IEEE Electron Devices Society Kansai Chapter](#)

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

【2025 年活動報告】

3 件の技術講演を開催し、2 件の国内学会と 1 件のセミナーに協賛した。また、1 件の DL 講演を主催した。

[主催/共催]

- ・ ISSCC 2025 国内報告会
開催日: 3 月 27 日(木)
会場: ベルサール飯田橋駅前 + オンライン
内容: 発表件数:8 件、出席者数:延べ 92 名
- ・ 集積回路研究会 メモリ技術と集積回路関連一般
開催日: 4 月 10 日(木)、11 日(金)
会場: 川崎市産業振興会館
参加者: 87 名
- ・ VLSI symposium 2025 国内報告会
開催日: 7 月 28 日(月)
会場: 神戸大学+オンライン
内容: 発表件数:17 件、出席者数:67 名

[協賛]

- ・ d.lab-VDEC リフレッシュセミナー
開催日: 8 月 18 日(月)~9 月 25 日(木)
会場: 東京大学 d.lab-VDEC
参加者: 100 名 (全日程)
- ・ デザインガイア 2025
開催日: 12 月 1 日(月)~3 日(水)
会場: 富山国際会議場
参加者: 130 名
- ・ ハードウェアセキュリティフォーラム 2025
開催日: 12 月 15 日(月)
会場: セコム本社 (東京都渋谷区)

参加者: 74 名

[IEEE Distinguished Lecturer 招聘講演会]

・ DL 講演会

開催日: 6 月 13 日(金)

会場: 神戸大学

参加者: 34 名

内容: 講演 1: ”The Road to Gate-All-Around and Its Impact on Analog Design”

Dr. Alvin Loke (Intel)

講演 2: ”Fractional-N Phase-Locked Loops Using Harmonic-Mixer-Based Feedback and Noise Cancellation”

Prof. Tetsuya Iizuka (東京大学)

講演 3: ”FPGA-Chiplet Architectures and Circuits for 2.5D/3D 6G Intelligent Radios”

Dr. Farhana Sheikh (Altera)

【2026 年活動計画】

技術講演会を中心とした活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を通じて会員獲得につなげる。また、関西地区等で開催される各種研究会やワークショップにも積極的に協賛し、協賛金の拠出や Award の授与を行うことで、広範な会員獲得活動に努める計画である。

[URL]

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

【2025 年活動報告】

4 件の技術講演(主催 1 件、共催 3 件)を開催し、4 件の国内学会に協賛した。詳細は以下の通りである。

[主催]

・ CASS iDLP (Industrial Distinguished Lecturer Program) seminar

開催日: 12 月 17 日(水)

・ 役員会

開催日: 2 月 7 日(金)、12 月 4 日(木)

[共催]

・ セミナー “Seminar on AI hardware”

開催日: 6 月 9 日(月)

内容: 講演 4 件

- 第 11 回 ソフトエラー(などの半導体の放射線効果)勉強会
開催日: 9 月 16 日(火)
内容: 講演 6 件
- セミナー “Frontiers of Heterogeneous Integration and Package Design”
開催日: 7 月 8 日(火)
内容: 講演 2 件

[協賛]

- LSI とシステムのワークショップ 2025
開催日: 5 月 13 日(火)、14 日(水)
- ”The 26th Workshop on Synthesis And System Integration of Mixed Information technologies (SASIMI 2025)”
開催日: 10 月 9 日(木)、10 日(金)
- 第 209 回 システムと LSI の設計技術研究発表会
開催日: 11 月 4 日(火)
(優秀な学生に IEEE CASS Kansai Chapter Best Student Presentation Award を授与)
- デザインガイア 2025
開催日: 12 月 1 日(月)~3 日(水)

以上、最新技術動向に関する技術講演会を開催した。2022 年に設立された「IEEE CASS Kansai Chapter Best Student Presentation Award」を本年度も1名に授与し、学生の研究活性化を行った。他学会主催の国内大会の協賛も実施し、参加者との交流を通じた CASS 関西チャプター活動のアピールと会員の獲得に努めた。なお、実施した講演会や今後の予定については、詳細を後述の URL に掲載している。

【2026 年活動計画】

引き続き、技術講演会を主催・共催として企画・実行することを中心に活動し、研究者・技術者向けの質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを共催、あるいは協賛し、学会活動に貢献するとともに会員獲得に努める計画である。

[URL]

<https://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cas/>

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

【2025 年活動報告】

2024 年に引き続き、(1) 関西圏におけるアンテナおよび無線通信技術に携わる若手技術者の育

成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2) 各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動を進めた。2025 年は主催技術会議 4 件、技術協賛 2 件を実施した。

[主催]

- ・ 1 月 23 日(木)に、ろうかん(労働会館、松江)にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演会を主催した。講演者として笹岡秀一氏(同志社大学)をお招きし、「電波伝搬特性に基づく秘密鍵共有における特性改善の検討」と題してご講演いただいた。
- ・ 4 月 10 日(木)に、兵庫県姫路市姫路市民会館にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演会を主催した。講演者として榎原晃氏(兵庫県立大学)をお招きし、「LiNbO₃ 電気光学変調器の高速化・高機能化に関する研究」と題してご講演いただいた。
- ・ 11 月 13 日(木)に、愛媛県民文化会館にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演会を主催した。講演者として都築伸二氏(愛媛大学)をお招きし、「LoRa 無線の伝搬特性とその応用」と題してご講演いただいた。
- ・ 12 月 20 日(土)に、京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパスにて、IEEE MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を共同主催した。講演者として湯川一樹氏(株式会社 Wave Technology)、坂口哲朗氏(古野電気株式会社)、箭野佳照氏(アイコム株式会社)をお招きし、それぞれ「Wave Technology の業務形態と一部内容のご紹介」、「マイクロ波放射計の紹介」、「可視光線を用いた光空間通信の実験」と題してご講演いただいた。また、各大学等からのポスター展示を行い、活発な討論が行われた。

[協賛]

- ・ 1 月 10 日(金)に、香川県小豆島町にて、URSI-C 小委員会により開催された「URSI-C 委員会 第 26 期 第 4 回公開研究会」に技術協賛した。
- ・ 10 月 31 日(金)に、大阪大学豊中キャンパスで開催された講演会に協賛した。講師は Dr. Daniel Headland (The University of Adelaide) で、演題は”Dielectric antennas for wireless systems at mm-wave frequencies and beyond”であった。

【2026 年活動計画】

2025 年に引き続き、(1) 関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2) 各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動し、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演会および MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催する。

[主催]

- ・ 4 月に IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演会を主催する。開催場所は大阪大学中之島センター、講演者は広島工業大学丸山珠美氏、講演題目は検討中。
- ・ 12 月某日に、IEEE MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を共同主催する。開催場所・講演者は選定中。

[協賛]

- ・ 8月26日(水)～28日(金)に、東京都小金井市の東京農工大にて、IEEE AP-S Tokyo Chapter 主催により開催される「2026 IEEE International Workshop on Electromagnetics: Applications and Student Innovation Competition (iWEM2026)」に技術協賛する。

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

【2025年活動報告】

技術講演会について1回の共催および1回の協賛を行い、加えてIEEE Distinguished Lecturer 招聘講演会を1回開催した。

[技術講演会]

- ・ 講演会 (共催)

“Surprises in Network Information Theory”

Prof. Wei Yu (University of Toronto)

開催日: 8月21日(木)

会場: 大阪公立大学 I-site なんば

参加者: 19名 (IEEE Attended:9, Guests Attended:10)

- ・ 講演会 (協賛)

「衛星コンステレーションがもたらす価値、そして挑戦」

三好 弘晃 (日本電気株式会社 NEC Fellow)

「超小型衛星が切り拓く新たな宇宙ビジネスについて」

保田 友晶 (株式会社アークエッジ・スペース執行役員/経営企画室長(併)ソリューション事業部長)

「電波によるブラックホール撮影:地上観測の現状と衛星観測への期待」

本間 希樹 (国立天文台 水沢 VLBI 観測所 所長 教授)

開催日: 11月6日(木)

会場: オンライン開催

[IEEE Distinguished Lecturer 招聘講演会]

- ・ IEEE Communications Society Kansai Chapter 主催 DL 講演会

“Reconfigurable Distributed Antennas and Reflecting Surface (RDARS): A New Architecture for Wireless Communications”

Prof. Shaodan Ma (University of Macau)

開催日: 8月29日(金)

会場: 大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス

参加者: 9名 (IEEE Attended:4, Guests Attended:5)

広報活動の活性化を図るため、Web サイトを通じて COMS Kansai Chapter に関する情報公開を行っている。活動計画ならびに活動報告は、下記 URL にて提供している。

【2026 年活動計画】

関西圏における通信技術分野の技術者との交流を促進し、産業界との連携を強化することで分野全体の活性化を図ることを目的として講演会を開催する。あわせて、通信技術に関わる研究者に対して議論および交流の場を提供し、会員数の増加につなげることを目標とする。本年度は、オンライン開催も積極的に取り入れ、講演会の開催回数を可能な限り増やす。春以降には講演者を招待し、IEEE COMS Kansai Chapter 技術講演会を主催する。また、他の研究講演会や関連イベントとの積極的な共催を推進し、広報・周知活動を強化することで参加者数の増加を図り、新規会員の獲得を目指す。

[URL]

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

【2025 年活動報告】

2 件の技術講演会と、1 件の表彰を行った。

5 月 30 日(金)に立命館大学 大阪いばらきキャンパスにて、「シリコン量子コンピューティング研究動向」をテーマに、神戸大学の三木拓司氏を講師にお招きして講演会を開催した。さらに、DVP 部門委員の George Proeller 氏、IEEE CS R10 の Mohamed Rawidean Mohd Kassim 氏をお招きしてご講演いただいた。30 名の参加があった。

5 月 31 日(土)にグランキューブ大阪にて、DVP 部門委員の George Proeller 氏、IEEE CS R10 の Mohamed Rawidean Mohd Kassim 氏に講演していただいた。George Proeller 氏からは、「Professional Development」を、Mohamed Rawidean Mohd Kassim 氏からは「ADVANCES IN INTELLIGENT SYSTEMS AND SMART APPLICATIONS」をテーマに講演いただいた。21 名の参加があった。

IEEE Computer Society Kansai Chapter Young Author Award の選考および表彰を行った。授与対象は、過去2年間に IEEE Computer Society Transactions、Magazine、その他の IEEE Computer Society 定期刊行誌に掲載された論文及び国際会議発表論文の筆頭著者である。また、受賞者は受賞前年の 12 月 31 日時点で 40 歳未満、かつ、応募時点で IEEE 届け出住所が日本国内 Kansai Section にある IEEE Computer Society 会員に限っている。募集ならびに審査は、IEEE Computer Society Japan Chapter Young Author Award と合同で実施した。厳正なる審査の結果、2025 年は奈良先端科学技術大学院大学の Fan Youmei 氏に授賞した。授賞理由は、同氏が筆頭著者の論文「My GitHub Sponsors profile is live! Investigating the Impact of Twitter/X Mentions on GitHub Sponsors」がソフトウェア工学におけるトップカンファレンスである IEEE/ACM 46th International Conference on Software Engineering (ICSE 2024) に採択されているからである。12 月 19 日(金)に IEEE Computer Society Tokyo/Japan Joint Chapter と合同で、IEEE CS Young Author Award 講演会をオンライン開催し、受賞者である Fan Youmei 氏に講演いただいた。

【2026 年活動計画】

昨年と同様に技術講演会 2 件および IEEE Computer Society Kansai Chapter Young Author Award の選考および表彰を行う予定である。これらを通じて、積極的に IEEE 会員獲得を目指す。

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

【2025 年活動報告】

Technical Meetings

[主催/共催]

- 第 18 回マイクロ波英語発表会 (主催)
 - 開催日: 6 月 28 日(土)
 - 会場: 大阪大学 豊中キャンパス J 棟 共用セミナー室 (J114)
 - 内容: 発表件数:18 件、参加者数 30 名(会員 20 名、非会員 10 名)
- DML(Distinguished Microwave Lecturers) (共催)
 - “Sensing, Tracking, and Secured Communication with Artificial Electromagnetic Materials”
 - Prof. Chung-Tse Michael Wu (National Taiwan University)
 - 開催日: 8 月 28 日(木)
 - 会場: 京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス 15 号館 1 階 105 号室
 - 参加者: 32 名(会員 12 名、非会員 10 名、オンライン 10 名)
- IEEE MTT-S Kansai Chapter ワークショップ (主催)
 - 「量子コンピュータとマイクロ波」
 - (1) 「マイクロ波研究者のための量子科学・基礎の基礎」 塩見 英久 (大阪大学)
 - (2) 「様々な量子ビットのマイクロ波制御」 大平 龍太郎 (キューエル)
 - (3) 「超伝導量子コンピュータの実用化研究」 田渕 豊 (理研)
 - (4) 「超伝導量子コンピュータのためのマイクロ波回路と産総研の評価技術」 加屋野 博幸 (産業技術総合研究所)
 - 開催日: 10 月 4 日(土)
 - 会場: 京都大学宇治キャンパス 木質ホール(ハイブリッド開催 Zoom)
 - 参加者: 44 名(会員 28 名、非会員 16 名)(うちオンライン参加 21 名)
- IEEE MTT-S Kansai Chapter and IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 合同若手技術交流会 2025 (共催)
 - (第一部)講演
 - (1) 「Wave Technology の業務形態と一部内容のご紹介」 湯川 一樹 (株式会社 Wave Technology)
 - (2) 「マイクロ波放射計の紹介」 坂口 哲朗 (古野電気株式会社)

(3) 「可視光線を用いた光空間通信の実験」 箭野 佳照 (アイコム株式会社)

(第二部)ポスターセッション

開催日: 12月20日(土)

会場: 京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス 60周年記念館 1F 記念ホール

参加者: 72名 (MTT-S 会員 28名、AP-S 会員 11名、非会員 38名、学生 46名)

[選奨]

- IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award

第18回マイクロ波英語発表会で優れたプレゼンテーションを行った者に「Best Presentation Award」を授与した。更に、上位1名に対して「IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award」を授与した。授与式は12月20日(土)に実施。

- IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award

MTT-S Japan/Kansai/Nagoya Chapter の合同で、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献する論文を発表した若手(38歳以下)の研究者個人に「IEEE Microwave Theory and Techniques Society Japan Young Engineer Award」を贈呈した。また、その中から特に優れた論文の著者に対して「Michiyuki Uenohara Memorial Award」を進呈した。

※受賞者は以下に記載

https://www.ieee-jp.org/section/tokyo/chapter/MTT-17/award/YEA_past_awardees/index.html

※対象者の要件等は以下に記載

<https://www.ieee-jp.org/section/tokyo/chapter/MTT-17/award/index-j.html>

- 合同若手技術交流会 2025 Best poster Award

IEEE MTT-S Kansai Chapter and IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 合同若手技術交流会 2025 のポスターセッションにて優れたプレゼンテーションを行った3名に「Best poster Award」を授与した。授与式は12月20日(土)に実施。

[協賛]

- The First International Workshop on Global Research Initiative for Wireless Technology

開催日/会場: 2月7日(金)/広島大学 東広島キャンパス(広島県東広島市)

開催日/会場: 2月11日(火)、12日(水)/東京農工大学 小金井キャンパス

- 第16回日本電磁波エネルギー応用学会講演会

開催日: 5月30日(金)

会場: オンライン

- 第19回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム

開催日: 8月28日(木)~30日(土)

会場: 甲南大学

- URSI-C 小委員会 第26期 第6回公開研究会
開催日: 10月10日(金)
会場: ハイブリッド開催 (滋賀県 白浜荘 ゲストハウス琵琶湖)
- Joint Workshop Thailand-Japan Microwave (TJMW) & Asian Wireless Power Transfer Workshop (AWPT) 2025
開催日: 10月15日(水)~17日(金)
会場: キングモンクット大学 ノースバンコク校 (KMUTNB)
- 2025 Microwave Workshops & Exhibition (MWE 2025)
開催日: 11月26日(水)~28日(金)
会場: パシフィコ横浜

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

- KC 役員会
開催日: 1月29日(水)
会場: Web 会議
参加者: 13名
- KC 役員会
開催日: 12月20日(土)
会場: 京都工芸繊維大学 & Web 会議
参加者: 9名
- JC/KC/NC 合同役員会
開催日: 3月26日(水)
会場: 東京都市大 & Web 会議
参加者: Chapter から 9名
- 2025年 IEEE 関西支部総会
開催日: 3月24日(月)
会場: 大阪工業大学
参加者: Chapter から 1名
- 2025年 IEEE Chapter Operation Committee
開催日: 6月4日(水)
会場: ハイブリッド開催
参加者: Chapter から 1名
- 2025年 IEEE Chapter Operation Committee
開催日: 11月19日(水)
会場: ハイブリッド開催
参加者: Chapter から 1名

【2026年活動計画】

ハイブリッドでの開催形式をベースとして、従来通り技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行う。技術領域としてはこれまでの専門領域の枠組みに拘らず、新領域分野の開拓も検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催／協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。マイクロ波英語発表会での優秀な発表者 2 名に IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award を授与し、国際的に活躍できる若手技術者の育成を強化する。また、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献する論文を発表した若手研究者 3 名に IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。Fellow および Senior Member への昇格候補者支援も、引き続き MTT-S Japan Chapter、MTT-S Nagoya Chapter と共同で行う。2014 年より運用し始めた電磁波関連分野の学生と電磁波技術者を求めている企業の間を橋渡しする「マイクロ波 出会いの広場」をより効果的な運用に推進するとともに、この橋渡しを就職活動だけでなく学生のインターンシップなどにも展開する計画である。

[URL]

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

【2025 年活動報告】

Technical Meeting として 1 月 23 日(木)にアクリエひめじにて IEEE Photonics Society Kansai Chapter 招待講演を主催し、渥美裕樹氏(産総研)から「自由空間光学への応用に向けたシリコンビームスキニングデバイスの開発」という題目でご講演いただいた。参加者は 30 名であった。本講演会は、翌日 24 日(金)も含む 2 日間にわたって開催された電子情報通信学会 MWPTHz/PN/EMT、電気学会 EMT 研究会との併催である。

8 月 28 日(木)、29 日(金)に、小樽商工会議所で開催された電子情報通信学会 LQE/R/EMD/CPM/OPE 共催の 8 月研究会に協賛。招待講演 4 件と一般講演 7 件があった。参加者は 70 名と盛会であった。

11 月 1 日(土)に、オンラインにて「第 11 回 IEEE Photonics Society Kansai Chapter 英語発表会」を主催した。9 名の学生による英語での発表が行われた。学生の優れた発表 1 件に対しては Best Student Presentation Award と副賞を授与した。参加者は 20 名であった。

11 月 6 日(木)に、関西学院大学で開催された応用物理学会関西支部 2025 年第 2 回講演会に協賛、招待講演 4 件、ポスター発表 23 件があった。招待講演のうち 1 件は、大阪大学の富士田誠之先生による Distinguished Lecturer 講演で、「Terahertz meets the idea of silicon photonics ～テラヘルツ技術の社会実装を目指して」という題目でご講演いただいた。参加者は 54 名と盛会であった。

12 月 11 日(木)～12 日(金)に、機械振興会館で開催された電子情報通信学会 OPE/LQE/PICS 合同研究会 Photonic Device Workshop 2025 に協賛、LQE 奨励賞受賞記念講演 2 件、基調講演 3 件、招待講演 6 件、パネル討論 10 件、ポスター発表 42 件があった。参加者は 344 名と盛会

であった。

Administrative Meeting として、3 月、8 月、10 月にオンラインで役員会を 3 回開催し、年間活動方針、Technical Meeting の企画、運営について協議した。

【2026 年活動計画】

Technical Meeting の開催を中心に活動を展開する。1 月 27 日に、例年通り電子情報通信学会 PN/MWP/EST/EMT/PEM 合同研究会と併催の形で招待講演イベントを主催する。また、例年好評を博している英語発表会を 11 月頃に開催する。

[URL]

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/pho/>

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

【2025 年活動報告】

Technical Meeting

[共催]

- ・ 第 57 回ストカスティックシステムシンポジウム(SSS'25)
開催日: 11 月 8 日(土)、9 日(日)
会場: 立命館大学 大阪いばらきキャンパス
参加者: 89 名
内容: 特別講演: 1 件、一般講演: 60 件
- ・ 第 40 回信号処理シンポジウム
開催日: 11 月 25 日(火)~27 日(木)
会場: ホテルレイクビュー水戸
参加者: 178 名
内容: 特別講演: 3 件、一般講演: 119 件

[IEEE Distinguished Lecturer 招聘講演会]

- ・ IEEE Signal Processing Society Kansai Chapter, Tokyo Joint Chapter, Sendai Chapter 共催 DL 講演会
“Spatial Audio Intelligence: From Representation to Understanding and Control of Auditory Environments”
Woon-Seng Gan 教授 (Nanyang Technological University, Singapore)
開催日: 3 月 3 日(月)
会場: 沖縄県青年会館
参加者: 187 名(うち会員 76 名)
- ・ IEEE Signal Processing Society Kansai Chapter, Tokyo Joint Chapter, Sendai Chapter 共催 DL 講演会

“Computational MR imaging in the AI era”

Mathews Jacob 教授 (University of Virginia, USA)

開催日: 11月21日(金)

会場: 大阪大学 中之島センター

参加者: 32名(うち会員11名)

学生賞に関する活動として、IEEE SPS Tokyo Joint Chapter および IEEE SPS Sendai Chapter との連名により、IEEE SPS Japan Student Journal Paper Award、IEEE SPS Japan Student Conference Paper Award、および IEEE SPS Japan Young Author Best Paper Award を実施し、それぞれ1名、3名、2名の受賞者を選定した。

【2026年活動計画】

引き続き講演会を開催し、会員を中心とする国内外の学術交流を図る。IEEE SPS Tokyo Joint Chapter、Sendai Chapter と連名で論文賞および学生賞の表彰を実施し、若手の研究を奨励するとともに、会員増加に努める。これらの活動については下記 Web サイトで公開している。

[URL]

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

j. CTS (Consumer Technology Society) West Japan Joint Chapter

【2025年活動報告】

Technical Meetings

[主催/共催]

- ・ 国際会議 14th IEEE Global Conference on Consumer Electronics (主催)

開催日: 9月23日(火)~26日(金)

会場: 大阪国際会議場

内容: 発表件数:536件(論文採択実績)、出席者数: 740名

長谷前 Chair が設立した国際会議。毎年10月にIEEE主催の国際会議として日本で開催している。GCCE 2025のConference ChairはCTSocの内藤彩乃であり、運営主体はCT-08 West Japan Chapterで、主たる運営はその会員で行なった。基調講演者として、ノーベル賞受賞者の天野浩氏をお迎えした。

- ・ 国際会議 2025 TRON Symposium (共催)

開催日: 12月10日(水)~12日(金)

会場: 渋谷パルコ DGビル 18F カンファレンスホール「Dragon Gate」

内容: 出席者数:100名 (IEEE CT Society が共催)

CTSocの共催(Technical Sponsor)により、国際会議2024TRON Symposiumを開催した。同場所で開催のTRONSHOW(6,000名参加)の一環として開催。長谷前 Chair が Vice-Chair として運営に参加。初日には Tom Coughlin・IEEE 前会長と

Fabrice Labeau・CTSoc 会長のビデオメッセージが流された。

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

- チャプター役員会
開催日：6月21日(土)
会場：大阪国際会議場
参加者：4名
内容：本年の総括と来年の計画に関して打合せを実施した。
- チャプター役員会
開催日：9月26日(金)
会場：大阪国際会議場
参加者：4名
内容：来年の計画に関して打合せを実施した。
- チャプター役員会
開催日：12月10日(水)
会場：渋谷パルコ
参加者：6名
内容：今後の進め方に関して打合せを実施した。

【2026年活動計画】

- 国際会議 15th IEEE Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2026)
2026年10月26日(月)～29日(木)に神戸市にて国際会議 GCCE 2026を開催する。Young Profession イベントを通じて、新規若手会員の獲得に努める。
- 国際会議 2026 TRON Symposium
12月中旬に東京ミッドタウンで国際会議 2026 TRON Symposium (CT Society の共催 (Technical Sponsor))を開催する。
URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

【2025年活動報告】

Technical Meetings

[主催/共催]

該当なし

[協賛]

- システム制御情報学会セミナー2025
主催：システム制御情報学会
開催日：11月21日(金)

会場：オンライン

参加者：25名

内容：発表件数：3件

・ 第68回自動制御連合講演会

主催：日本機械学会（幹事）、計測自動制御学会、システム制御情報学会、化学工学会、精密工学会、電気学会、日本航空宇宙学会

開催日：11月1日（土）、2日（日）

会場：名古屋大学 東山キャンパス（愛知県名古屋市不老町1）

参加者：616名

内容：発表件数：364件

・ The 57th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications

主催：システム制御情報学会

開催日：11月8日（土）、9日（日）

会場：立命館大学 大阪いばらきキャンパス（大阪府茨木市岩倉町2-150）

参加者：89名

内容：発表件数：60件

[IEEE Distinguished Lecturer 招聘講演会]

該当なし

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

・ 2025年度第1回役員会

開催日：11月20日（木）

会場：大阪大学 U3棟 311室

参加者：2名

・ 2025年度第2回役員会

開催日：11月25日（火）

会場：札幌コンベンションセンター

参加者：2名

Chapter 支援費利用事業

該当なし

【2026年活動計画】

主催行事として下記の講演会を開催予定。

- ・ IEEE CSS Kansai Chapter セミナー 2026

また、例年通り下記の学会に協賛をする予定。

- ・ 計測自動制御学会 第13回制御部門マルチシンポジウム

- ・ ISCIE・SICE チュートリアル講座
- ・ The 58th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications
- ・ 第 69 回自動制御連合講演会
- ・ システム制御情報学会セミナー

[URL]

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/>

1. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

【2025 年活動報告】

Technical Meetings

[主催/共催]

- ・ パワーエレクトロニクス学会 第 257 回定例研究会(4 月) (共催)
開催日: 4 月 19 日(土)
会場: 立命館大学 大阪茨木キャンパス
内容: 発表件数 4 件、出席者数 114 名
- ・ パワーエレクトロニクス学会 第 258 回定例研究会(6 月) (共催)
開催日: 6 月 14 日(土)
会場: 神戸市立工業高等専門学校
内容: 発表件数 4 件、出席者数 74 名
- ・ パワーエレクトロニクス学会 第 259 回定例研究会(7 月) (共催)
開催日: 7 月 19 日(土)
会場: まちなかキャンパス長岡 301 会議室
内容: 発表件数 5 件、出席者数 83 名
- ・ パワーエレクトロニクス学会 第 260 回定例研究会(10 月) (共催)
開催日: 10 月 4 日(土)
会場: 同志社大学 京田辺キャンパス
内容: 発表件数 6 件、出席者数 77 名
- ・ パワーエレクトロニクス学会 第 261 回定例研究会(12 月) (共催)
開催日: 12 月 13 日(土)
会場: 大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス
内容: 発表件数 33 件、出席者数: 93 名

[協賛]

- ・ スマートエネルギーセミナー「ローカル VPP とデータサイエンスによるエネルギーパラダイム革新 2～防災強靱化, 脱炭素, AI, MBSE, 次世代デバイス～」
主催: 電気学会産業応用部門 家電・民生技術委員会、長崎総合科学大学、芝浦工業大学

開催日: 1月30日(木)

会場: 東京ビッグサイト 610 会議室

内容: 発表件数 10 件、出席者数 78 名

- ・ 電気学会産業応用フォーラム「ローカル VPP とデータサイエンスで加速するエネルギーパラダイム革新とニュービジネスの胎動」

主催: 電気学会産業応用部門 家電・民生技術委員会

開催日: 11月6日(木)

会場: 大阪工業大学 梅田キャンパス

内容: 発表件数 9 件、出席者数 70 名

Non-Technical Meetings

- ・ 2025 年 IEEE IES JJC 第 1 回 幹事会議

開催日: 3月13日(木)

会場: Zoom によるオンライン

参加者: 3 名

- ・ 2025 年 IEEE IES JJC 第 2 回 幹事会議

開催日: 12月13日(土)

会場: 大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス

参加者: 3 名

Chapter 支援費利用事業

- ・ IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award

(2025 年 4 月 19 日(土)実施)

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して 2024 年に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会で発表された論文の中から、35 歳以下の若手による 1 件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award を授与し、副賞として Amazon ギフトカード 3 万円分を授与した。

主旨: (B) 若手獲得・育成の企画

利用支援費: 3 万円、内訳: 副賞 (3 万円) / 件 × 1 件

- ・ 2025 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して 2025 年 12 月に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会における学生・若手技術者によるポスター形式の発表における優秀発表 2 件の発表者に対して、IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与し、副賞として Amazon ギフトカード 1 万円分を授与した。

主旨: (B) 若手獲得・育成の企画

利用支援費: 1 万円、内訳: 副賞 (1 万円) / 件 × 2 件

【2026 年活動計画】

パワーエレクトロニクス学会と共催で、4月、6月、8月、10月、12月に定例研究会の開催を予定している。また、以下の表彰を行う計画である。

- **2025 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award**
IEEE-IES Japan Joint Chapter が毎回共催しているパワーエレクトロニクス学会定例研究会(12月の研究会は対象から除外する)の満35歳以下(ただし発表時点において)の最優秀論文1件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter Young Engineer Award を授与する。
- **2026 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞**
IEEE-IES Japan Joint Chapter が共催して12月に開催されるパワーエレクトロニクス学会定例研究会では学生・若手技術者によりポスター形式で30件程度の発表会が行われている。その中の優秀発表2件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与する。

これらの活動については下記の Web サイトで広報を行う。

[URL]

<http://www.ieeeiesjapanchapter.blogspot.jp/>

m. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

【2025年活動報告】

Technical Meetings

[主催/共催]

- **IMS symposium on chirality-related dynamical phenomena**(共催)
開催日: 3月10日(月)~12日(水)
会場: 東岡崎カンファレンスセンター
内容: 発表件数: 79件、出席者数: 113名
- **IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter Lecture**(主催)
”Electromagnetic Response Theory with Weak Relativistic Corrections”
Prof. Emeritus Kikuo Cho (Osaka University, Japan)
開催日: 5月17日(土)
会場: ホテルプラザ神戸
参加者: 16名
- **IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter Lecture**(主催)
”The curious case of hybrid halide perovskites”
Prof. Pablo Docampo (Ikerbasque, Basque Foundation for Science, Spain)
開催日: 9月5日(金)
会場: 大阪公立大学
参加者: 15名

- Summer School on Magnetism (主催)
開催日: 9月22日(月)~24日(水)
会場: 静岡大学
内容: 発表件数: 32件、出席者数: 51名
- IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter Lecture (主催)
”NMR study of the organic S=1 Haldane chain”
Prof. Mihael Grbic (University of Zagreb, Croatia)
開催日: 10月22日(水)
会場: 大阪公立大学
参加者: 18名
- IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter Lecture (主催)
”Correlated electrons in electrically tunable domain-wall networks of moiré bilayers”
Dr. Chen-Hsuan Hsu (Institute of Physics, Academia Sinica, Taiwan)
開催日: 12月2日(火)
会場: 大阪公立大学
参加者: 9名
- MRIS 2025 (共催)
開催日: 12月4日(木)、5日(金)
会場: 愛媛大学
内容: 発表件数: 13件、出席者数: 58名

[協賛]

該当なし

[IEEE Distinguished Lecturer 招聘講演会]

- IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter Lecture (主催)
”Brain-Inspired Computing Using Magnetic Domain Wall Devices”
Prof. S.N. (Prem) Piramanayagam
(Nanyang Technological University, Singapore)
開催日: 10月4日(土)
会場: 大阪公立大学
参加者: 21名

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

- IEEE Magnetism Society 国内 Chapter, 日本磁気学会理事, IEEE Magnetism Society Adcom, 台湾磁気技術協会(TAMT)ミーティング
開催日: 9月18日(木)
会場: 道後山の手ホテル

参加者： 21 名

• Chapter chair meeting with overseas chapters' members

開催日： 11 月 5 日(水)

会場： オンライン

参加者： 10 名

【2026 年活動計画】

関西・四国圏の磁性関連研究者を対象に、技術講演会の開催や学生・若手研究者を主たる対象とした研究会を開催するなど、技術情報の提供や会員獲得に向けた活動を実施する。春か秋の適当な時期に基調講演と学生のポスター発表会をメインとする第6回関西四国磁性研究会を開催する。同会では学生に奨励賞を授与する予定である。これ以外に、関西・四国地区での研究会の主権を企画する。国内の他 MAG chapter との連携を強化しており、DL 講演会の共同開催などを進める。また、各国の chapter 間の国際協力活動を継続し、MagSoc virtual chapters meeting を通じて、若手研究者の交流やキャリア支援や DL 推薦などを協議する。また、他学協会と研究会などを共催・協賛する予定である。特に IEEE と関わりがある日本磁気学会の研究会との共催を進める。併せて会員への情報提供のため web site の充実を図る。

[URL]

<http://ieemag.wixsite.com/kansai-shikoku>

n. PSES (Product Safety Engineering Society) Kansai and Nagoya Joint Chapter

【2025 年活動報告】

2 回の Technical meeting を実施した。

[主催]

• 第 10 回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング

開催日： 5 月 23 日(金)

会場： 一般財団法人 電気安全環境研究所 関西事業所 + Web のハイブリッド

内容： 発表件数:3 件、出席者数:6 名(対面 4 名、Web 2 名)

• 第 11 回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング

開催日： 10 月 10 日(金)

会場： 三菱電機株式会社 先端技術総合研究所 + Web のハイブリッド

内容： 発表件数:3 件、出席者数:7 名 (対面 6 名、Web 1 名)

【2026 年活動計画】

2 回のミーティングの開催を計画している。

[主催]

• 第 12 回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング

開催日： 2026 年 5 月

会場：未定（現地+ Web のハイブリッド）

- 第 13 回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング

開催日：2026 年 10 月

会場：未定（現地+ Web のハイブリッド）

V. 関西支部会員数

1. 会員数推移状況 (2025年12月31日時点)

表. 年ごとの会員数と内訳

Year	H	LF	F	LS	SM	LM	M	AM	GSM	StM	Total
2016	1	48	30	23	126	82	1,547	61	258	82	2,258
2017	1	48	28	24	124	84	1,520	61	290	52	2,232
2018	1	41	27	23	126	88	1,539	59	266	49	2,219
2019	1	46	22	24	140	92	1,494	52	291	69	2,231
2020	1	49	21	30	145	98	1,470	45	241	55	2,155
2021	1	49	24	32	159	107	1,427	34	234	67	2,134
2022	1	49	23	34	167	111	1,433	39	238	71	2,166
2023	1	48	19	38	174	119	1,423	43	274	79	2,218
2024	1	44	24	44	184	126	1,404	47	283	88	2,245
2025	1	42	25	49	85	127	1,398	52	340	182	2,301

Grade code H: Honorary member, LF: Life Fellow, F: Fellow,
 LS: Life Senior member, SM: Senior Member,
 LM: Life Member, M: Member, AM: Associate Member,
 GSM: Graduate Student Member, StM: Student Member

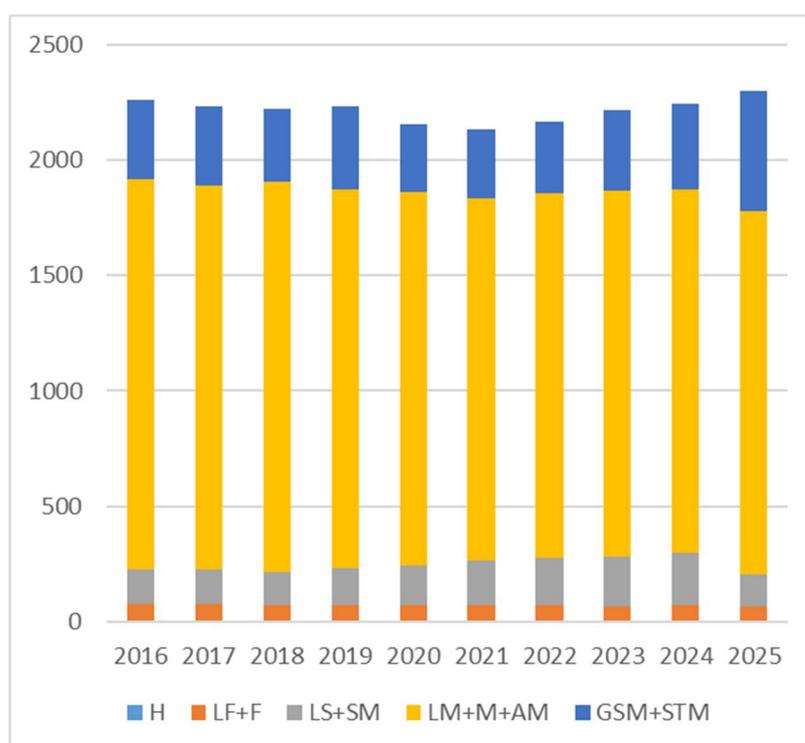


図. 会員区分の推移

2. ソサイエティ別会員数

[2025年12月31日更新]				◎ 幹事Chapter									
Society Code	Society Chapter Name	Established Year	関西支部メンバー数	Chapter 構成	札幌	仙台	信越	東京	名古屋	関西	四国	広島	福岡
SP-01	Signal Processing Society Tokyo Joint Chapter	1982		東京Joint	○		○	◎	○		○	○	○
	Signal Processing Society Sendai Chapter	2013		仙台単独		◎							
	Signal Processing Society Kansai Chapter	2007	142	関西単独						◎			
BT-02	Tokyo/Japan Sections Broadcast Technology Society Joint Chapter	1983	1	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
AP-03	Anntenas and Propagation Society Tokyo Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	◎					
	Anntenas and Propagation Society Nagoya Chapter	2006		名古屋単独					◎				
	Anntenas and Propagation Society Kansai Chapter	2006	68	関西Joint						◎	○	○	
	Anntenas and Propagation Society Fukuoka Chapter	2005		福岡単独									◎
CAS-04	Circuits and Systems Society Japan Joint Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	◎	○				○
	Circuits and Systems Society Kansai Chapter	2002	111	関西単独						◎			
	Circuits and Systems Society Shikoku Chapter	2006		四国単独								◎	
	Circuits and Systems Society Fukuoka Chapter	2001		福岡単独									◎
NPS-05	Nuclear and Plasma Sciences Society Japan Chapter	1981	23	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
VT-06	Vehicular Technology Society Tokyo Chapter	1979	40	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
R-07	Reliability Society Japan Joint Chapter	1983	11	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CT-08	Consumer Technology Society East Joint Japan Chapter	1983		東京Joint	○	○	○	◎					
	Consumer Technology Society West Joint Japan Chapter	2008	34	関西Joint						◎	○	○	○
IM-09	Instrumentation and Measurement Tokyo/Japan Sections Joint Chapter	1973	8	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
AES-10	Aerospace and Electronic Systems Society Japan Chapter	1991	9	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CIS-11	Computational Intelligence Society Japan Chapter	2004	79	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
IT-12	Information Theory Society Japan Chapter	1981	41	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
IE-13	Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter	1981	75	関西Joint	○	○	○	◎	○	◎	○	○	○
TEM-14	Technology and Engineering Management Society Japan Chapter	1997	6	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
ED-15	Electron Devices Society Japan Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Electron Devices Society Kansai Chapter	2000	163	関西単独						◎			
C-16	Computer Society Japan Chapter	1967		東京Joint	○	○	○	◎	○				◎
	Computer Society Kansai Chapter	2006	308	関西単独						◎			
	Computer Society Fukuoka Chapter	2004		福岡単独									◎
MIT-17	Microwave Theory and Techniques Society Japan Chapter	1958		東京Joint	○	○	○	◎			○	○	○
	Microwave Theory and Techniques Society Nagoya Chapter	2010		名古屋単独					◎				
	Microwave Theory and Techniques Society Kansai Chapter	2006	130	関西単独						◎			
EMB-18	Engineering in Medicine and Biology Society Japan Chapter	1970	108	東京Joint	○	○	○	◎	○	○			
	West Japan Chapter of Engineering in Medicine and Biology	2007		福岡Joint								○	◎
COM-19	Communications Society Japan Chapter	1973		東京Joint	○		○	◎	○			○	○
	Communications Society Sendai Section Chapter	2012		仙台単独		◎							
	Communications Society Kansai Chapter	2006	183	関西単独						◎			
UFFC-20	Ultrasonics, Ferroelectrics and Frequency Control All Japan Joint Chapter	1986	43	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
EP-21	Electronics Packaging Society Japan Chapter	1994	46	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
OE-22	Oceanic Engineering Society Japan Chapter	1996	7	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
CS-23	Control Systems Society Japan Chapter	1981		東京Joint	○	○	○	◎	○			○	○
	Control Systems Society Kansai Chapter	2011	98	関西単独						◎			
RA-24	Robotics and Automation Society Japan Joint Chapter	1990	188	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
E-25	Education Society Japan Chapter	1981	14	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
PC-26	Professional Communication Society Japan Chapter	2006	2	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
EMC-27	Electromagnetic Compatibility Society Japan Joint Chapter	1980	31	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Electromagnetic Compatibility Society Sendai Chapter	2001		仙台単独		◎							
SMC-28	Systems, Man, and Cybernetics Society Japan Chapter	1974	91	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○		○
	Systems, Man, and Cybernetics Society Hiroshima Chapter	2005		広島単独								◎	
GRS-29	Geoscience and Remote Sensing Society All Japan Joint Chapter	1982	17	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
SIT-30	Society on Social Implications of Technology Japan Chapter	1983	2	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
PE-31	Power & Energy Society Japan Joint Chapter	1964	56	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
DEI-32	Dielectrics and Electrical Insulation Society Japan Chapter	1986	12	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Magnetics Society Tokyo Chapter	1977		東京単独				◎					
	Magnetics Society Sendai/Sapporo Joint Chapter	2005		仙台Joint	○	◎							
	Magnetics Society Shin-etsu Chapter	2015		信越単独			◎						
	Magnetics Society of Japan Nagoya Chapter	2008		名古屋単独					◎				
MAG-33	Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter	2015	35	関西Joint						◎	○		
	Fukuok/Hiroshima Joint Sections Magnetics Society Chapter	2018		福岡Joint									◎
IA-34	Industry Applications Society Japan Chapter	1973	57	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
	Power Electronics Society Japan Joint Chapter	1990	97	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
PEL-35	Power Electronics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									◎
	Photonics Society Japan Chapter	1986		東京Joint	○	○	○	◎	○			○	○
PHO-36	Photonics Society Kansai Chapter	2007	56	関西単独						◎			
	Photonics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									◎
SSC-37	Solid-State Circuits Society Japan Chapter	1998		東京Joint	○	○	○	◎	○			○	○
	Solid-State Circuits Society Kansai Chapter	2001	110	関西単独						◎			
ITS-38	Intelligent Transportation Systems Society Tokyo Chapter	2014	21	東京単独				◎					
	Intelligent Transportation Systems Society Nagoya Chapter	2013		名古屋単独					◎				
PSE-43	Product Safety Engineering Society	2021	2	関西Joint					◎	◎			
CEDA-44	Council on Electronics Design Automation All Japan Joint Chapter	2014		東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○

◎ 幹事Chapter
 ○ Joint Chapter
 # 他支部Jointで関西支部会員数が50名を超えるもの

「◎」幹事 Section (活動の主体、Rebate の受領及活動報告義務)、「○」Joint Chapter に参画している Section 12 名以上で、Chapter の設立が可能。なお、関西 Section が参画する Chapter のみを一覧

VI. 2025 年 会計報告

収入の部		2025年計画		2025年実績	
◆IEEE Entity間協定	3,173,085	内容 (2024年実績ベース)		内容	
・ Section Rebate (IEEE本部より)	2,165,148	2024年度実績: \$13,480.05×160.73 JPY/USD - 手数料 ¥1,500		2,066,236	2025年度実績: \$14,015.70×147.53 JPY/USD - 手数料 ¥1,500
▲ Chapter Rebate支払	▲ 389,772	2024年度実績: (\$200×1.1)×11+\$75×3=\$2,645×160.73 全14Chapter分 (内、1Chapter47,415円はプール、3Chapterは0) 支払		▲ 444,069	2025年度実績: (\$295)×2+\$220×11=\$3,010×147.53 全14Chapter支払 (内、1Chapterは0)
▲ Affinity Group Rebate支払	▲ 47,415	2024年度実績: (\$200×1.1)×3+\$75×3=\$885×160.73 7/19 LMAG分 47,415円支払 WIE分 47,415円プール YP分 47,415円プール		▲ 43,521	2025年度実績: \$295×3=\$885×147.53 9/3 LMAG分 43,521円支払 WIE分 43,521円プール YP分 43,521円プール
・ SB Rebate	137,692	2024年度実績: \$866×160.73 JPY/USD - 手数料¥1,500		200,752	2025年度実績: \$1,380×146.56 JPY/USD - 手数料 ¥1,500
▲ SB Rebate支払	▲ 173,905	7/19 全75B分 (内、1大学のSBは0) 支払		▲ 202,254	全65B支払 (1大学のSBは0)
・ Section Rebate 小計	1,691,748			1,577,144	
・ Section Assessment 2025	5,363,162	2024年実績: 前期 \$ 34,172.10*153.80=¥5,255,668, 4/22 後期 \$ 701.43*153.25=¥107,494, 11/25		4,854,194	2025年実績: 前期 \$ 33,370.29×141.57=¥4,724,231 後期 \$ 857.45×151.57=¥129,963
▲ Japan Council拠出金 +手数料	▲ 4,558,688	前期 4,467,318=4,465,158+1,500+660 (換金手数料1,500円、振込手数料660円) 後期: 91,370=89,210+1,500+660		▲ 4,126,065	前期: 4,015,596=4,013,436+1,500+660 後期: 110,469=108,309+1,500+660 (換金手数料1,500円、振込手数料660円)
・ Section Assessment小計	804,474	15%還元残高		728,129	15%還元残高
・ LMAG Fund	0			0	
・ WIE Fund	0			0	
・ YP Fund	0			0	
・ AG Fund 小計	0			0	
・ Section Incentives	0			0	
・ TENCON2020余剰金	466,000			515,556	2025/10/3 ¥515,556
・ IEEE YP Funding	105,000			115,912	Transfer \$750 to the Kansai Section for the 6th Workshop on Career Development in Doctoral Course
	7,620	Senior Member Elevation Nomination Incentive (\$60)		7,096	Senior Member Elevation Nomination Incentive (\$60)
・ 銀行利息	98,243	CB 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12 UFJ 2月19日、8月19日		78,140	CB 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12 UFJ 2月19日、8月19日
・ その他小計	676,863			716,704	
◆ Japan CouncilからのSection支援 (Fund)	285,544			219,874	
・ MileStone支援				74,250	IEEE Milestone贈呈式 (カラープラズマディスプレイ、紫光技研)
・ Section支援(EA)	185,544	IEEE Kansai Section EAイベント支援費		45,624	IEEE Kansai Section EAイベント支援費
・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	100,000	2025年は20個申請予定、総額¥200,000、Section支援費の ¥100,000を相殺の上、¥100,000をJCに支払い		100,000	2025年は20個申請予定、総額¥200,000、Section支援費の ¥100,000を相殺の上、¥100,000をJCに支払い
小計	3,458,629			3,241,851	TENCON2020余剰金 (515,556円) は特例
◆前年度からの繰越金	3,978,735	¥口座 ¥2,057,359.- (2024年会計締め) \$口座 ¥1,921,376.- \$13,803.77- TTB Avg 139.19		3,978,735	¥口座 ¥2,057,359.- (2024年会計締め) \$口座 ¥1,921,376.- \$13,803.77- TTB Avg 139.19
合計	7,437,364			7,220,586	

支出の部		2025年計画		2025年実績	
◆会合・AWARD・活動	4,386,394	内容	2,608,649	内容	
・関西支部活性化費	1,200,000	2024年実績相当+追加イベント等見込み(EA9月イベントはEA支援費へ) 300,000 SYWL(Student Branch, Young Professionals, Women in Engineering, Life Member Affinity Group)学生等派遣 300,000 若手ワークショップ(YP 9~10月、JC支援費含む) 200,000 社会人と学生の交流会(YP 7月~8月) 300,000 IEEE関西 Fellow Club (NC 100,000*年3回、3,8,11月) 100,000 企業会員を増やすための講演会(MDC)	235,874	①49,566円 9/17 LMAG技術講演会 セミナー室 ②116,120円 10/11 YP「第4回社会人と学生の交流会」 ③70,188円 12/25 Fellow Club	
・総会開催費	900,000	2024年計画と実績を考慮(JCには下の参加費入金分を差引いた金額を報告): 400,000 会場費(総会会場、懇親会場)、学生受賞者旅費、消耗品費、等 懇親会費は、10,000コース×50名想定=500,000 下記懇親会費徴収額を超える275,000を支部が実費負担	601,026	①185,086円 3/24会場費(大阪工大) ②410,000円 3/24懇親会費(グランピア大阪) ③5,940円 3/24学生研究奨励費/YP賞旅費	
▲懇親会費徴収	▲150,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(5,000円×35名想定) 学生は全額支部負担も想定	▲185,000	①185,000円 3/24懇親会参加費入金分 学生研究奨励費は全額支部負担	
・講演会開催費(TPC)	150,000	2024年計画相当: TPCの講演者への謝礼:3万円×5人 *TPC(Technical Program Committee)	92,782	①10,394円 7/24 LMAG/TPC講演会 懇親会費用 ②52,052円 7/28 NC/TPC講演会 懇親会費 ③16,836円 9/17 LMAG/TPC講演会 懇親会費 ④13,500円 11/25 第133回TPC講演会 懇親会費	
・理事会費	450,000	2024年実績を考慮 会場代他(9.0万円×5回予定)	247,950	①84,084円 2/5 第1回理事会、②0円 3/24 第2回理事会、 ③0円 5/27 第3回理事会、④63,910円 9/25 第4回理事会、 ⑤99,956円 12/23 第5回理事会、会場費(30,206円)+ 懇親会 (店支払134,750円-徴収費65,000円)	
・Committee会合費	150,000	2024年計画相当: MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	136,455	①82,500円 5/16 MDC Joint workshop ②53,955円 11/24 MDC/SAC/YP/NC/WIE joint WS	
・メダル、研究奨励費	315,394	2024年計画と実績を考慮: 80,000 学生研究奨励費(¥20,000 4名):2025年総会用 35,394 YP賞メダル(3個分):2025年総会用 200,000 JCメダル(20個分):2026年総会用(在庫含む)、JC半額支援金 含む	506,544	①80,000円 3/24学生研究奨励費副賞:2025年総会 ②35,394円 3/24学生研究奨励費メダル3個分:2025年総会 ③148,500円 Milestone 栄光技研:半額はJC支援を申請 ④42,650円 Milestone 古野:85,300円がJC立替のため半額を送金 ⑤200,000円 JCメダル×20個:2026年総会用	
・Student Branch支援費	150,000	2024年実績相当: SB Chairミーティング 研究交流会 英語プレゼン大会 アライストミソグコフレット 年末交流会(12月)等	105,067	①6,217円 5/7 SB Chair meeting 飲食費 ②16,690円 12/6 大阪大学SB 年末報告会・交流会 ③52,610円 12/12-13 SB交流会 ④29,550円 12/12-13 SB交流会	
・LMAG支援費	176,000	2024年計画相当: 40,000 技術講演会開催・準備費用(手土産・講師謝礼) 50,000 東ア7LMAG会議参加費(旅費:春) 8,000 LMAGサロン等活動費(事務費用含む) 22,000 SBプレスト大会(LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会(LMAG賞)(10~11月) 36,000 ハイブリッド会議費	174,341	①49,566円 7/24 LMAG/TPC講演会 大阪工大費用 ②1,800円 7/24 LMAG/TPC講演会 安田先生駐車場費用 ③23,375円 7/1 LMAG Zoom使用料 安田先生 ④1,800円 8/29 安田先生 リハーサル対応機材運搬用駐車場 ⑤1,800円 9/17 安田先生駐車場費用②~⑤をまとめて送金 ⑥7,600円 9/17 技術講演会謝礼&交通費 ⑦20,000円 11/25 LMAG講演会 ATR見学会	
・WIE支援費	350,000	2024年計画相当: WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)	291,553	①291,553円 WIE Symposium,WIE/YP joint WS、技術講演会等	
・YP支援費	435,000	24年計画+Fund入金相当 博士のキャリアを語る会、Overlea勉強会(支部外YPと合同開催)	310,809	①3,820円 5/7 WIE/YP共同開催講演会 交通費 ②7,340円 5/16 MDC-SAC-YP-WIE-joint-workshop交通費 ③138,040円 5/31 Overlea勉強会 ④2,900円 9/11 google account ⑤2,220円 9/13 WIEシンポジウム ⑥6,860円 11/8 立命館英語プレゼン大会 YP rebateとして処理 ⑦149,629円 12/13 第7回博士課程のキャリアについて語る会	
・EA支援費	200,000	一般向け科学/技術教育イベント(EA9月JC支援費含む)	91,248	①2,080円 9/6 講演会 Flyer費用 ②89,168円 9/6 講演会 半額はJC支援費を申請	
・Chapter支援費	60,000	30,000×2件			
◆事務経費	500,000		19,936		
・外部監査費	0	外部監査不要			
・事務用品費	0	ファイル等	12,406	①7,317円 3/24 HDMI等ケーブル ②4,504円 3/24 文房具等(総会用) ③585円 12/20 HDMI延長プラグ	
・旅費	500,000	R10Meeting2/22~2/23 Incheon, South Korea:400,000(Air往復) 100,000、Hotel25,000x3、Food and beverage20,000x4、Others: 10,000x4) x1人他			
R10支援費					
・通信費	0	郵送料、宅急便等	7,530	①5,130円 3/24 総会宅急便費用 ②2,400円 3/24 JCメダル送付用レターバックプラス×4名	
◆雑費	30,000		▲210,851		
・取引手数料、他	30,000	2024年計画相当: 為替手数料(CB口座の為替損益調整は円安傾向で益化の見通し) 振込手数料(理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み 他)	▲210,851	①1,540円 口座残高証明書発行手数料 ②▲241,540円 為替損益(1/1\$残高13803.77,1,921,376円, AVG TTB 139.1,1/6付 TTB=156.69で換算2,162,917円⇒差額241,540 円)	
小計	4,916,394		2,417,734		
◆次年度への繰越金	2,520,970	2026年への繰越金	4,802,852	¥口座 ¥3,135,554(2025年会計締め) ①口座 ¥1,667,298, \$10,248.17, TTB Avg 162.69(12月1日Interestで算 出)	
合計	7,437,364		7,220,586		

VII. 2026年 予算

収入の部		2025年実績	2026年計画	
◆IEEE Entity間勘定		3,021,977	2,390,509	内容(2025年実績ベース)
	・ Section Rebate (IEEE本部より)	2,066,236	2,066,236	2025年度実績: \$14,015.70×147.53 JPY/USD - 手数料¥1,500
	▲Chapter Rebate支払	▲ 444,069	▲ 444,069	2025年度実績: (\$295)×2+\$220×11=\$3,010×147.53 全14Chapter支払(内、1Chapterは0)
	▲Affinity Group Rebate支払	▲ 43,521	▲ 43,521	2025年度実績: \$295×3=\$885×147.53 9/3 LMAG分 43,521円支払 WIE分 43,521円プール YP分 43,521円プール
	・ SB Rebate	200,752	200,752	2025年度実績: \$1,380×146.56 JPY/USD - 手数料¥1,500
	▲SB Rebate支払	▲ 202,254	▲ 202,254	全6SB支払(1大学のSBは0)
	・ Section Rebate 小計	1,577,144	1,577,144	
	・ Section Assessment 2025	4,854,194	4,854,194	2025年実績: 前期 \$ 33,370.29×141.57=¥4,724,231 後期 \$ 857.45×151.57= ¥129,963
	▲Japan Council拠出金 +手数料	▲ 4,126,065	▲ 4,126,065	前期: 4,015,596=4,013,436+1,500+660 後期: 110,469=108,309+1,500+660 (換金手数料1,500円、振込手数料660円)
	・ Section Assessment小計	728,129	728,129	15%還元残高
	・ LMAG Fund	0	0	
	・ WIE Fund	0	0	
	・ YP Fund	0	0	
	・ AG Fund 小計	0	0	
	・ Section Incentives	0	0	
	・ TENCON2020余剰金	515,556	0	2025/10/3 ¥515,556
	・ IEEE YP Funding	115,912	0	Transfer \$750 to the Kansai Section for the 6th Workshop on Career Development in Doctoral Course
		7,096	7,096	Senior Member Elevation Nomination Incentive (\$60)
		0	0	
	・ 銀行利息	78,140	78,140	CB 1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12 UFJ 2月19日、8月19日
	・ その他小計	716,704	85,236	0
◆Japan CouncilからのSection支援 (Fund)		219,874	219,874	
	・ MileStone支援	74,250	74,250	IEEE Milestone贈呈式(カラープラズマディスプレイ、紫光技研)
	・ Section支援(EA)	45,624	45,624	IEEE Kansai Section EAイベント支援費
	・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	100,000	100,000	2025年は20個申請予定、総額¥200,000、Section支援費の¥100,000を相殺の上、¥100,000をJCに支払い
	小計	3,241,851	2,610,383	
◆前年度からの繰越金		3,978,735	4,802,852	¥口座 ¥3,135,554 (2025年会計締め) \$口座 ¥1,667,298, \$10,248.17, TTB Avg 162.69 (12月1日 Interestで算出)
合計		7,220,586	7,413,235	

支出の部		2025年計画		2026年計画	
◆会合・AWARD・活動	4,386,394	内容	3,747,343	内容	
・関西支部活性化費	1,200,000	2024年実績相当+追加イベント等見込み(EA9月イベントはEA支援費へ) 300,000 SYWL(Student Branch, Young Professionals, Women in Engineering, Life Member Affinity Group)学生等派遣 300,000 若手ワークショップ(YP 9~10月、JC支援費含む) 200,000 社会人と学生の交流会(YP 7月~8月) 300,000 IEEE関西 Fellow Club (NC 100,000*年3回、3,8,11月) 100,000 企業会員を増やすための講演会(MDC)	700,000	追加イベント等見込み 150,000円 SYWL(Student Branch, Young Professionals, Women in Engineering, Life Member Affinity Group) 学生等派遣×5名 150,000円 社会人と学生の交流会(YP) 200,000円 IEEE関西 Fellow Club (NC) 100,000円 YP講演会 100,000円 WIEワークショップ	
・総会開催費	900,000	2024年計画と実績を考慮(JCには下の参加費入金分を差引いた金額を報告): 400,000 資料印刷費、会場費(総会会場、懇親会場)、学生受賞者旅費、消耗品費、等 懇親会費は、10,000コース×50名想定=500,000	750,000	2025年計画相当額 350,000円 総会場費用、学生受賞者旅費、消耗品費等 400,000円 懇親会費:10,000円×40名	
▲懇親会費徴収	▲150,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(5,000円×35名想定) 学生は全額支部負担も想定	▲150,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(5,000円×30名想定) 学生は全額支部負担も想定	
・講演会開催費(TPC)	150,000	2024年計画相当: TPCの講演者への謝礼:3万円×5人 *TPC(Technical Program Committee)	150,000	2025年計画相当額 TPCの講演者への謝礼:30,000円×5名 *TPC(Technical Program Committee)	
・理事会費	450,000	2024年実績を考慮 会場代他(9.0万円×5回予定)	350,000	2025年計画相当額 会場費ほか(7.0万円×5回予定)	
・Committee会合費	150,000	2024年計画相当: MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	150,000	2025年計画相当額 MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	
・メダル、研究奨励費	315,394	2024年計画と実績を考慮: 80,000 学生研究奨励費(¥20,000 4名):2025年総会用 35,394 YP賞メダル(3個分):2025年総会用 200,000 JC大メダル(20個分):2026年総会用(在庫含む)、JCより半額支援金含む	598,343	2025年計画相当額 80,000円 学生研究奨励費(20,000円×4名):2026年総会用 18,343円 YP賞メダル(1個):2026年総会用 200,000円 JCメダル(20個):2026年総会用 半額をJC支援申請 300,000円 Milestone支援費(100,000円×3件)	
・Student Branch支援費	150,000	2024年実績相当: SB Chairミーティング 研究交流会 英語プレゼン大会 アライストミナグコフレット 年末交流会(12月)等	150,000	2025年計画相当額 SB Chairミーティング 研究交流会 英語プレゼン大会 アライストミナグコフレット 年末交流会(12月)等	
・LMAG支援費	176,000	2024年計画相当: 40,000 技術講演会開催・準備費用(手土産・講師謝礼) 50,000 東アジアLMAG会議参加費(旅費:春) 8,000 LMAGサロン等活動費(事務費用含) 22,000 SBプレスト大会(LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会(LMAG賞)(10~11月) 36,000 ハイブリッド会議費	204,000	2025年実績相当: 40,000円 オンライン技術講演会開催費用(講師謝礼) 26,000円 Zoom使用料(講演会・役員会等オンライン用) 118,000円 技術講演会開催費用(セミナー室使用料・講師謝礼) 10,000円 LMAGサロン等活動費(事務費用含) 10,000円 SB英語プレゼン大会(LMAG賞)(10~11月)	
・WIE支援費	350,000	2024年計画相当: WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)	250,000	2025年計画相当額 WIE Symposium、WIE/YP joint WS 10周年記念イベント完了を考慮	
・YP支援費	435,000	24年計画+Fund入金相当 博士のキャリアを語る会、Overleaf勉強会(支部外YPと合同開催)	335,000	2025年計画相当額 博士のキャリアを語る会、Overleaf勉強会(支部外YPと合同開催) 10周年記念イベント完了を考慮	
・EA支援費	200,000	一般向け科学/技術教育イベント(EA9月JC支援費含む)	200,000	一般向け科学/技術教育イベント(EA9月JC支援費含む)	
・Chapter支援費	60,000	30,000×2件	60,000	30,000×2件	
◆事務経費	500,000		220,000		
・外部監査費	0	外部監査不要	0	外部監査不要	
・事務用品費	0	ファイル等	10,000	配信用備品類、文房具など	
・旅費	500,000	R10Meeting2/22~2/23 Incheon, South Korea:400,000(Air往復) 100,000、Hotel25,000x3、Food and beverage20,000x4、Others: 10,000(x4)x1人他	200,000	①IEEE Section Congress Chair 飛行機代 200,000円 Secretary出席の交通費は自社費用で負担 ②2026年 R10Meeting 3/28~3/29 KOKURA JAPAN、Vice Chairの出席なし ※Secondary delegationとしてVice Chairが出席する場合は予算確保が必要 ChairはR10の費用で出席	
・R10支援費					
・通信費	0	郵送費、宅急便等	10,000	郵送費、宅急便等	
◆雑費	30,000		30,000		
・取引手数料、他	30,000	2024年計画相当: 為替手数料(CB口座の為替損益調整は円安傾向で益化の見通し) 振込手数料(理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み他)	30,000	2025年実績相当: 為替手数料(CB口座の為替損益調整は円安傾向で益化の見通し) 振込手数料(理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み他)	
小計	4,916,394		3,997,343		
◆次年度への繰越金	2,520,970	2026年への繰越金	3,415,892	2027年への繰越金	
合計	7,437,364		7,413,235		

VIII. 受賞者

IEEE 関西支部 Young Professionals 賞 受賞者 (1名)

香田 優介 京都大学

IEEE 関西支部学生研究奨励賞 受賞者 (4名)

谷口 諒太郎 京都大学
中島 隆一 京都工芸繊維大学
楠山 弘基 大阪大学
原 拓己 京都大学

IEEE 関西支部メダル受賞者 (新 Senior Member) (15名)

四方 博之 関西大学
葛岡 成晃 和歌山大学
元井 直樹 神戸大学
小川 厚徳 NTT コミュニケーション科学基礎研究所
岩村 雅一 大阪公立大学
梁 滋璐 京都先端科学大学
劉 海龍 奈良先端科学技術大学院大学
木内 万里夫 住友精密工業
楊 波 京都大学
栗野 皓光 京都大学
末永 寛 パナソニックインダストリー
諏訪 勝重 三菱電機
安本 慶一 奈良先端科学技術大学院大学
ヤリクン ヤシャイラ 奈良先端科学技術大学院大学
大嶋 光昭 パナソニックホールディングス

IEEE 新 Fellow (1名)

小野 輝男 京都大学
(敬称略)

以降、参考情報

I. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following: Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN.

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary and Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

Section3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs,
representatives of Affinity Groups,
such other members appointed by the Section Executive Committee,
and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section,

shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

IEEE Japan Council メダル授与規定

関西支部は、関西支部活動への積極的な参画を動機付けること、及び、Member Grade の昇格を動機付けることを目的とし、また、関西支部活動のアピールを行なうことにより関西支部の活性化に繋げることを目的として、IEEE Japan Council メダルを下記の者に授与する。

1. 関西支部に所属する新 Fellow で、Senior Member 昇格時に IEEE 関西支部メダルもしくは IEEE Japan Council メダルを贈呈されなかった者
2. 総会の前年の 1 年間の間に関西支部で新 Senior Member に昇格した者
3. 支部長が推薦し、理事会において承認された者

また、下記の希望者に対しては、支部長が推薦し、理事会において承認された上で、有償にて授与することができる。但し、その金額は関西支部が IEEE Japan Council メダルを Japan Council から購入した最新の購入単価とする。

4. 関西支部に所属する Fellow 又は Senior Member の希望者で、Fellow 昇格時又は Senior Member 昇格時において IEEE 関西支部メダルもしくは IEEE Japan Council メダルを贈呈されなかった者
5. 関西支部内部の運営に貢献のあった者
6. 上記以外の特別な理由で理事会の承認を得た者

本規定は、施行/改定承認日から適用する。

また、本規定の施行と同時に、IEEE 関西支部メダル授与規定(2017 年 1 月 1 日改定)を撤廃する。

2022 年 2 月 22 日施行

年 月 日改定

年 月 日改定

IEEE 賞状用紙支給に関する規定について

IEEE Japan Council の Award 登録を行った Chapter、Affinity Group、Student Branch の表彰に対し、IEEE の賞状に台紙を支給することができる。

1. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① IEEE Japan Council の Award 登録手続きに従い、登録を行う。
- ② IEEE Japan Council の Award 登録用紙(Excel)、賞状の必要枚数、賞状送付先住所氏名を添え、賞状授与申請のメールを関西支部事務局(sec-kansai@ieee-jp.org)に送付する。なお、申請は会合の2週間以上前とする。
メールタイトルは、「【IEEE 賞状授与申請】[組織名]必要に応じて備考」としていただきたい。
 - ① 内容を確認し、問題がなければ Award Committee より、所定の住所へ賞状を発送する。
 - ② 授与組織は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、関西支部事務局にメール送付する。

2. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016年10月20日施行

2017年1月1日改定

IEEE 関西支部 Chapter 予算補てんに関する規定について

Chapter が活動を行う際に、関西支部からの Rebate、Society からの支援では活動費がまかなえない場合に、関西支部が Chapter の不足額の補てんについては、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

年初に Chapter 支援総額を予算化し、その予算の中で運用する。

なお、予算総額については、2月に開催される総会で承認をする。予算額は、その年の支部の活動、為替レートなどにより変動する可能性がある。

1年間の Chapter あたりの補てん額の上限は 3 万円とする。なお、予算総額に応じ、上限額は変わることがある。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① Chapter より、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、現在の Chapter 資金、会合にかかる想定費用、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Chapter Operation Committee (COC) に送付する。なお、申請は会合の 3 週間以上前とする。
- ② COC は、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、Chapter からの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ Chapter に承認の可否を連絡する。
- ④ Chapter は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、各種領収書、請求書の PDF を関西支部事務局にメール送付するとともに、請求書の原本を関西支部事務局に送付する。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、Chapter に所定の金額を振り込む。

3. 補てん可能な内容について

① 講演者への謝礼

原則、IEEE 会員の講演者については、謝礼を遠慮していただいているが、謝礼をしなければ、有用な事業が実施できない場合に、支援を行う。

- i) Chapter が「主催」もしくは「共催」する事業に限定する
- ii) 謝礼額は、原則として、Chapter ごとの差が出ないように、1 名 1 万円とする
- iii) 支援を受ける事業については、Chapter のホームページ等で Chapter 会員に周知する。
- iv) 想定参加人数は、10 名以上であること。

② 役員会合に対する支援

Chapter の役員会合に対しては、Japan Council からは支援が受けられないが、役員
の力が Chapter 活動に大きく影響するため、役員会合に対しても一定の支援を行うこと
にする。ただし、飲食に対する支援は、1 回/年とする。

- i) 会合の参加者は 3 名以上
- ii) IEEE 本部の Meeting Report が作成されていること
- iii) 支援額は、飲食代の 1/2 以下とする
 - ・1 名あたりの支援額の上限を 2,000 円(税抜き)とする
 - ・会合の終了時間が 19 時以降の場合に支援を行う

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 9 月 23 日施行

2017 年 1 月 1 日改定

IEEE 関西支部 SB 支援に関する規定について

関西支部が Student Branch(SB)活動に対する支援については、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

- ① 1事業の支援額の上限は3万円とする。なお、旅費は除く。
- ② 支部の予算状況に応じて運用し、支援を保証するものではない。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① SBより、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Student Activities Committee(SAC)に送付する。なお、申請は会合の3週間以上前とする。
- ② SACは、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、SBからの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ SBに承認の可否を連絡する。
- ④ SBは会合開催後、活動報告レポートの関西支部への提出及びSBのホームページへの活動報告の登録を行った後に、領収書のPDFを関西支部事務局にメール送付するとともに、領収書の原本を関西支部事務局に送付する。
なお、活動報告のレポートには、
 - ・開催日時、場所
 - ・参加人数および可能であれば、IEEE会員の参加人数
 - ・イベントの規模がわかる写真
 - ・副賞などの支援を行った場合には、受賞者の写真を掲載することが望ましい。
SBのホームページには活動報告のレポートを掲載するなどに対応してもよい。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、SB口座に所定の金額を振り込む。

3. 支援内容について

SBの活動に対し、

- ① IEEE会合に付随して開催されること。
- ② IEEE本部の Meeting Report が作成されていること
- ③ SBのホームページに会合の報告が公開されること

の条件が満たされ、かつ、各項目記載の条件を満たす場合に、以下のような支援を行う

- ④ 会合に付随する飲食の支援について
以下の要件を満たす場合に、費用の1/2もしくは、2,000円(税抜)/人の低い額を支援する。
 - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上
- ⑤ 会合に参加する際の旅費の支援について
以下の要件を満たす場合に、旅費交通費を支援する。
 - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上

ii) 運営側、もしくは発表者として参加していること。単なる参加者には支援を行わない。

支援対象者の役割一覧を提出すること

⑥ 発表会などの副賞について

以下の要件を満たす場合に、副賞を支援する。

- i) IEEE 会合に参加している人数が 10 名以上
- ii) 副賞を受け取れる人数は参加者の 10%以下
- iii) 副賞は現金以外(図書券など)とする
- iv) 副賞の上限は 10,000 円/人とする

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・ 事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 12 月 20 日施行

IEEE 関西支部理事会役員に関する規定について

IEEE 関西支部理事会及び支部長が指名する理事役員として、以下のメンバーを関西支部の理事役員とする。

1. Past 役員

Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer, Past Committee Chair についても、Chair もしくは理事会で指名した場合には、理事会役員とする。

2. Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者

現行 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer の残り任期が 1 年以下の期間に、Chair もしくは理事会で指名した場合に、次期 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者を理事会役員とする。なお、立候補予定者は、次期役員として立候補することを前提とする。また、候補予定者が役員となる時には、Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer は原則として役員を退任する。

3. 適用日

本規定は、2018 年 1 月 31 日から適用する。

2018 年 1 月 30 日理事会承認

参考

By Laws より

such other members appointed by the Section Executive Committee, and such other members appointed by the Section Chairman.

MGA Operation Manual/9.4 Sections/D. Section Management

1. The Section affairs shall be managed by an Executive Committee consisting of the elected officers. The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed. Chapter and Affinity Group Chairs, as elected by their membership, are considered "elected" official, as is the Past Section Chair.

※その他の Past Vice Chair, Past Committee Chair 等については、記載がない

2. All Chapters and Affinity Groups in the Section shall have voting representation either individually or collectively on the Section Executive Committee, and the Subsection Chairs shall be ex-officio members with voting power.

3. Sections may have Student representation on the Executive Committee through appointment of one Student member and/or the Chair of the Section Student Activities Committee. It is recommended that every Section have a Section Student Representative (SSR), who is a voting member of the Section Committee, in Sections where there is at least one Student Branch.

4. A quorum is required for administrative meetings. A majority of the voting members the committee shall constitute a quorum. These meetings shall be conducted in accordance with Robert's Rules of Order (latest version) as the standard parliamentary authority.

5. Reasonable efforts should be made to notify all members of Section meetings and activities. Methods of communication could be, but are not limited to, email distributions (in keeping with IEEE email policies), postings on Section Web sites, social media venues, or hard copy distributions.

関西支部では、Chair, Vice Chair, Secretary, Treasurer, MDC Chair, NC Chair, SAC Chair, TPC Chair, AC Chair, COC Chair の 10 名 + LMAG Chair, WIE Chair, YP Chair, Past Chair の合計 14 名が選挙で選ばれた役員/理事。従って、役員/理事総数は 27 名以下。なお、Past Chair も退任する場合、Secretary と Treasurer が兼任の場合には、役員/理事会総数は 25 名以下。

基本的には、Elected 扱いの Past Chair が残っていれば、他のすべての役職の Past もしくは立候補予定者が入っても、必ず、選挙で選ばれた役員は過半数を超えるが、Past Chair の代わりに Chair 立候補予定者となってしまうと、どれかの役職の Past もしくは立候補予定者が理事会に入らない状態にならないければ、選挙で選ばれた役員数が過半数を超える状態にならないため、注意が必要。

(参考) 関西支部各チャプターにおける国際会議 Sponsorship の承認手続きについては、以下の JC COC の手続きに従うこととする。

国際会議 Sponsorship の承認手続きについて

2018年12月18日

2019年02月14日 改訂

2019年10月31日 改訂

2021年6月18日 改訂

2022年3月10日 改訂

Japan Council Chapter Operations Committee

Tokyo Section Chapter Operations Committee

1. Chapter が関わる Sponsorship の承認手順

(0) IEEE 側の担当者 (Chapter 等) は、共催/協賛の承認手続きに先だち次を済ませておく。

- ・ 営利団体への共催、協賛は、原則、行わない、ことの確認

IEEE Policy 10.1.2 項参照

<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf>

- ・ 事前に相手先の組織を確認し、実態不明の組織との「共催」とならないことを確認
- ・ Organizational Unit (OU)間の協議で、Financial Co-sponsorship か Technical Co-sponsorship かを決定
- ・ 関係する OU 間で責任分担を明確にして、MOU を作成
- ・ <注意> MOU 締結申請をした際には、MOU 申請者は支部の 3 役(Chair, VC, Secretary)

に連絡すること

【参考】 IEEE における Sponsorship の定義について

Types of Sponsors 詳細は以下参照

<https://ieeemce.org/planning-basics/getting-started/obtaining-sponsorship/>

国内での協賛 (後援) は IEEE では以下に該当する。

Non-Sponsor Support (WEB などに情報を掲載する場合は細かい種別は掲載せず、「Non-Sponsor Support」という用語を利用頂く。)

Non-Sponsor Support は以下を含む：

-
- ・Partners
 - ・Contributors
 - ・Patrons
 - ・Supporters
 - ・Publicity
 - ・Keynotes
 - ・Exhibitors
-

国際会議の場合、Conference application には Non-Sponsor Support の記載欄が無い場合、協賛（後援）の場合は、団体名は記載しないよう注意する。

- (1) 国際会議主催者が IEEE Conference Application から web 登録後、IEEE MCE より、該当する OU (Section) Officer に承認依頼が届くので、Section Secretary は、Section 事務局に送付し採番(#1)を依頼し、事務局は Section COC (Chair)に検討依頼を行う。
#1 事務局通し番号、会議名、MOU 記載の会議番号、TCS/FCS の識別、関連 Chapter、関連支部、IEEE MCE からの送付日、審議期間、審議状況等を記録する。

- (2) Section COC(Chair)は該当する Chapter に対して、確認、審議を行う。
複数の Section の Chapter からなる Joint Chapter が該当する場合、または、その依頼の場合には、Main Section だけでなく Joint のすべての Section の Chair, Secretary (#2), (当該 Section に存在する場合)COC とも期限を定めて審議を行う。
協議時間は、1 週間を目安としながら、案件ごとに Section の COC (Chair)が設定する。
#2 Main Section 以外の Section の Chair, Secretary は、審議結果を依頼元の Section COC (Chair)に電子メールにて報告する。この際に、本部 web での結果登録を行っては「ならない」。

審議においては、Section COC(Chair)は以下を行う。

- ① TCS の場合は、TCS-Fee の負担組織を確認する。TCS-Fee は、Conference の主催者、Chapter/Section、その両者の分担の 3 つのケースがある。あらかじめ設定した期限までに Section から非承認回答がなければ、承認として処理する。

* IEEE の Technical Co-Sponsorship Fee (TCS-Fee) が 2019 年 1 月 1 日より導入され、IEEE Geo Unit と TCS を締結している国際会議は 1,450 ドルに加え、IEEE Xplore 掲載費として 22 ドル/Paper の費用負担を行う。なお、Xplore に掲載しない場合でも、定額 1,450 ドルを負担する。

【参考】 MGA Operations Manual: 10.4Conference involvement, C-2 TCS Fee

https://mga.ieee.org/images/files/MGA_Operations_Manual_2021.3.30_FINAL.pdf

- ② FCS の場合は、支部負担がないことを担保するため、次のことを確認する。
- ・ 「関係 Section は一切の金銭負担は負わないこと」を Chapter に伝えるとともに、
 - ・ 「会議が最悪ケースでも赤字予算にならないこと」を確認し、Section の確認に移ることとする。
 - ・ FCS については、関係全 Section からの承認回答を以て承認とする。

(3) Section Secretary は、COC の答申結果に基づき、次の処理を行う。

- ・ TCS の場合は、Section Secretary が承認(web)して、後日、Section 理事会で報告する。
- ・ FCS の場合は、Section の理事会でメール審議を行い、承認後に Section Secretary が承認(web)を行う。

(4) 費用負担が発生する場合の注意点

- ・ Chapter/Section が費用負担を行う場合（負担率(%)が0でない場合）、負担分の収支の確認のため予算案を同時に Chapter から提出いただく。
- ・ 国際会議主催者が IEEE Conference Application から web 登録を行う前に、事前に Chapter/Section に費用負担の承認を求める場合がある。その場合も同様に、上記の手続きにより対応する。承認を得たのち、正式に web 登録してもらう。

【参考】 IEEE Policy 10.1.4 項

<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf>
https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee_policies.pdf

2. Chapter が関係しない Section や Japan Council での Sponsorship の承認手順

国内学会等からの Section (Japan Council) 宛の協賛依頼については、Section(Japan Council)理事会のメール審議などで協賛の可否を審議し、承認後に依頼元へ事務局から回答する。Japan Council では協賛対応は行うが、Technical Co-Sponsorship については、会議において Technical な部分でのサポートが求められるため、原則対応せず、関連分野の Chapter での対応を推奨する。

*日本国内での協賛、後援について、ホームページや各種媒体への名義掲載に際し、英語表記の場合、該当する IEEE での用語利用に注意頂く。(【参考】 Sponsorship の定義についてを参照)

協賛(後援、協力)については、Co-Sponsorship, Technical Co-Sponsorship には該当せず、Non-Sponsor Support のカテゴリーでの対応をお願いする。

用語の利用について、日本国内での協賛イベント（研究会、講演会など）も IEEE Policy の国際会議のガイドラインに準拠した対応とする。

<https://ieeemce.org/planning-basics/getting-started/obtaining-sponsorship/>
<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf#page=76>

3. MOU を必要としない Chapter での Sponsorship 処理について

以下の場合、MOU を必要としない。

この場合 Chapter 内で可否を審議判断し、所属 Section 等には結果の報告を行う。

- (1) 会議の財政規模（収入または支出の多い方）が 25,000USD を超過する会議において、当該 Chapter の担当内容が、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合
（運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)、物品貸与を伴わない場合）

- (2) 会議の財政規模が 25,000USD 以下の会議において、当該 Chapter の担当内容が、物品貸与、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合
（運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)を伴わない場合）

#3 運営収支が支出過剰になった場合に財政負担を行うような責任

#4 運営資金の一部または全部を支出するまたは物品を供出する責任

※ 注意点

- ・いずれの場合にも、営利団体への共催、協賛等は、原則、行わない。
- ・役務や責任に対する認識相違を防止するため、依頼元からは IEEE 側の役務や責任を明記した依頼状を受領することとし、協賛等の可否判断の審議に供することとする。
- ・上記の諸条件で規定できない何等かの責任を負う場合には、責任の内容によっては MOU を締結することが好ましい場合がある。判断に迷う場合には、支部、或いは JC-COC に問い合わせる
- ・Logo の使用に当たっては IEEE Policy 6.3.2 項、10.1.17 項、12.1 項に準拠のこと

<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf>
https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee_policies.pdf

【参考】 MOU の要否判断例

-----JC COC 提案の更新版-----

【参考】 MOU の要否判断例

運営責任その他の提供役務の有無に応じて下表のようにケース 1～4 を定義する。

「共催」、「協賛」等の用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断する。

ケース\提供役務	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」 「共催」相当)	有	有	有	有	有	有	有
ケース 2 (多くの場合「協賛」相当)				有	有	有	有
ケース 3 (多くの場合「協力」相当)					有	有	有
ケース 4 (多くの場合「後援」相当)						有	有

ケース 3、4 では MOU 不要と判断する。

特に、財政規模が 25,000USD 以下の会議ではケース 2 も MOU 不要と判断する。

(A) 財政規模が 25,000USD を超過する会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断

(B) 財政規模が 25,000USD 以下の会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 3、4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断
以上

2026 年 IEEE 関西支部 連絡先
〒661-8661 兵庫県尼崎市塚口本町 8-1-1
三菱電機株式会社 先端技術総合研究所内
IEEE 関西支部 事務局
e-mail: sec-kansai@ieee-jp.org
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/english/>